

資料編

- 《資料１》民間都市ランキングの分析（分析表）
- 《資料２》まち比較アンケート調査（アンケート票）
- 《資料３》観光未来像（ワークショップ結果）
- 《資料４》郷土愛醸成（北野政吉氏聞き取り記録）
- 《資料５》郷土愛醸成（山本博和氏聞き取り記録）
- 《資料６》郷土愛醸成（橋本吉兄氏聞き取り記録）
- 《資料７》2015年2月4日 市長報告資料（都市ランキング分析）
- 《資料８》2015年2月4日 市長報告資料（まち比較アンケート）
- 《資料９》2015年2月4日 市長報告資料（理想都市像）
- 《資料１０》2015年2月4日 市長報告資料（観光未来像）
- 《資料１１》2015年2月4日 市長報告資料（郷土愛醸成）

《資料１》民間都市ランキングの分析（分析表）

和泉市は黄色網掛け、大阪 33 市の中央値にあたる市は赤字で示している。

① 手ごろな住宅が促す若年夫婦の集住

順位	①若年層有配偶率・男		②若年層有配偶率・女		③住宅延べ床面積		④住宅地地価		⑤持家世帯比率		順位
	単位	%	単位	%	単位	m	単位	百円	単位	%	
1	貝塚	54.3	貝塚	62.3	河内長野	111.2	大阪	2,376	河内長野	79.7	1
2	和泉	53.9	和泉	61.0	阪南	103.3	豊中	2,098	阪南	78.1	2
3	泉大津	53.4	泉大津	60.2	泉南	100.5	吹田	2,026	交野	75.3	3
4	高石	52.7	高石	60.1	交野	95.9	茨木	1,814	大阪狭山	73.2	4
5	交野	51.9	四条畷	59.2	岸和田	93.0	池田	1,720	羽曳野	72.9	5
6	四条畷	51.7	交野	58.7	和泉	92.2	箕面	1,693	泉南	71.3	6
7	大阪狭山	51.2	泉南	58.5	泉佐野	90.8	守口	1,685	和泉	70.6	7
8	岸和田	51.1	茨木	58.2	羽曳野	90.7	摂津	1,645	松原	69.9	8
9	茨木	50.8	大東	57.4	大阪狭山	90.6	高槻	1,554	四条畷	68.0	9
10	豊中	50.1	岸和田	57.3	富田林	90.4	東大阪	1,518	枚方	67.0	10
11	藤井寺	49.8	泉佐野	57.2	貝塚	89.4	藤井寺	1,462	藤井寺	66.3	11
12	堺	49.8	堺	56.8	箕面	87.5	八尾	1,364	高石	66.0	12
13	泉佐野	49.6	八尾	56.6	藤井寺	86.4	大東	1,350	岸和田	65.0	13
14	泉南	49.5	摂津	56.6	高槻	84.1	寝屋川	1,339	貝塚	64.9	14
15	枚方	49.2	豊中	56.5	柏原	84.0	門真	1,333	柏原	64.7	15
16	吹田	49.0	吹田	56.3	高石	83.9	四条畷	1,325	高槻	64.4	16
17	阪南	48.8	高槻	55.9	枚方	82.6	枚方	1,278	八尾	64.1	17
18	羽曳野	48.6	枚方	55.8	四条畷	82.5	堺	1,254	泉佐野	63.8	18
19	八尾	48.4	箕面	55.8	松原	81.9	高石	1,218	富田林	62.5	19
20	高槻	48.3	藤井寺	55.8	泉大津	81.2	交野	1,202	寝屋川	62.4	20
21	箕面	48.0	池田	55.7	堺	80.8	松原	1,199	箕面	59.9	21
22	富田林	47.1	羽曳野	55.2	八尾	80.7	柏原	1,190	大東	59.2	22
23	寝屋川	46.7	柏原	55.1	池田	79.1	泉大津	1,117	堺	59.1	23
24	河内長野	46.4	大阪狭山	55.1	寝屋川	77.1	大阪狭山	987	泉大津	58.2	24
25	柏原	46.0	阪南	55.0	東大阪	76.0	羽曳野	965	東大阪	57.7	25
26	大東	45.8	寝屋川	54.4	茨木	75.5	岸和田	923	守口	57.6	26
27	松原	45.4	松原	54.4	摂津	74.4	和泉	801	池田	56.1	27
28	池田	44.9	東大阪	53.0	大東	72.9	富田林	768	茨木	55.8	28
29	摂津	44.9	富田林	52.0	豊中	72.2	河内長野	683	摂津	55.3	29
30	東大阪	43.9	門真	51.4	吹田	70.7	貝塚	664	豊中	52.5	30
31	守口	42.3	河内長野	51.1	守口	70.4	泉佐野	577	吹田	50.6	31
32	門真	41.8	守口	50.9	門真	65.7	泉南	463	門真	49.6	32
33	大阪	41.4	大阪	47.1	大阪	61.0	阪南	445	大阪	42.2	33

② 郊外のベッドタウン

順位	⑥昼夜間人口比率	⑦自市内従業員割合	⑧納税者1人当たり所得	⑨小売業年間販売額・人口1人当たり	⑩完全失業率	⑪労働力率・30～40代女性	⑫保育所整備率	⑬待機児童比率	順位
	単位 %	単位 %	単位 万円	単位 万円	単位 %	単位 %	単位 %	単位 %	
1	大阪 132.8	大阪 73.2	箕面 422.0	大阪 145.8	箕面 6.0	寝屋川 65.2	大阪 46.0	池田 0.0	1
2	摂津 112.7	東大阪 54.7	豊中 392.0	泉佐野 99.6	吹田 6.2	貝塚 64.6	泉佐野 40.9	貝塚 0.0	2
3	門真 111.2	堺 51.9	吹田 388.3	箕面 88.1	豊中 6.4	柏原 63.8	柏原 39.9	泉佐野 0.0	3
4	泉佐野 104.7	泉佐野 49.0	池田 368.4	泉南 86.2	茨木 6.7	東大阪 63.7	貝塚 39.5	富田林 0.0	4
5	東大阪 103.2	八尾 48.1	大阪狭山 357.0	守口 85.1	河内長野 6.7	岸和田 63.6	守口 38.5	松原 0.0	5
6	守口 101.2	岸和田 45.8	茨木 351.4	大阪狭山 78.7	池田 6.8	泉佐野 63.3	摂津 38.0	柏原 0.0	6
7	大東 101.1	枚方 43.8	交野 337.0	堺 75.1	岸和田 6.9	大東 63.3	寝屋川 36.7	門真 0.0	7
8	吹田 98.6	高槻 42.2	高石 335.7	茨木 75.0	高槻 6.9	阪南 63.2	岸和田 34.2	高石 0.0	8
9	八尾 95.7	摂津 41.7	枚方 333.2	八尾 74.4	泉大津 7.1	羽曳野 62.9	四条畷 34.0	泉南 0.0	9
10	泉南 94.9	門真 41.3	富田林 332.7	東大阪 73.5	大阪狭山 7.1	松原 62.8	松原 32.6	阪南 0.0	10
11	堺 94.4	松原 41.2	河内長野 329.5	高槻 72.2	羽曳野 7.2	摂津 62.6	大東 32.2	枚方 0.1	11
12	池田 93.5	泉南 41.1	堺 328.0	泉大津 70.1	堺 7.3	八尾 62.3	八尾 32.1	大東 0.3	12
13	茨木 92.6	貝塚 40.0	高槻 327.8	大東 69.5	枚方 7.4	交野 61.7	門真 31.8	寝屋川 0.4	13
14	高石 91.6	大東 40.0	藤井寺 327.1	和泉 69.2	柏原 7.4	大阪 61.6	羽曳野 31.5	堺 0.5	14
15	泉大津 91.5	茨木 39.8	和泉 324.0	吹田 68.4	和泉 7.6	富田林 61.5	富田林 31.2	大阪 0.5	15
16	柏原 91.2	寝屋川 37.5	八尾 318.2	岸和田 68.3	東大阪 7.6	高槻 61.4	阪南 31.0	箕面 0.7	16
17	岸和田 90.9	守口 37.3	大阪 314.8	寝屋川 67.0	八尾 7.8	門真 61.4	東大阪 30.6	岸和田 0.8	17
18	松原 90.5	豊中 36.9	四条畷 312.3	門真 66.2	泉佐野 7.8	枚方 61.3	高石 30.6	羽曳野 0.9	18
19	豊中 89.2	和泉 36.4	泉大津 311.8	摂津 66.2	富田林 7.9	守口 61.2	泉大津 30.0	摂津 1.1	19
20	貝塚 88.9	柏原 36.2	柏原 308.1	豊中 65.4	交野 7.9	堺 61.1	堺 29.9	交野 1.1	20
21	大阪狭山 88.0	吹田 35.7	羽曳野 306.4	貝塚 64.7	貝塚 8.0	大阪狭山 61.0	藤井寺 29.7	高槻 1.2	21
22	枚方 87.8	池田 34.9	阪南 304.9	枚方 64.2	守口 8.1	藤井寺 60.9	和泉 29.6	河内長野 1.2	22
23	富田林 87.7	富田林 34.7	貝塚 302.9	藤井寺 61.6	高石 8.1	泉南 60.8	枚方 29.1	藤井寺 1.4	23
24	藤井寺 87.4	羽曳野 34.3	東大阪 302.7	池田 60.1	摂津 8.2	和泉 60.4	交野 28.3	和泉 1.5	24
25	寝屋川 87.3	泉大津 33.9	寝屋川 298.5	松原 59.7	四条畷 8.4	河内長野 60.3	茨木 27.7	豊中 1.6	25
26	高槻 86.5	河内長野 33.8	岸和田 297.8	河内長野 58.7	寝屋川 8.5	四条畷 60.1	泉南 27.6	守口 1.9	26
27	箕面 85.9	箕面 33.4	守口 297.0	羽曳野 57.0	大阪 9.1	泉大津 60.0	河内長野 27.5	四条畷 2.0	27
28	和泉 85.8	阪南 33.3	松原 297.0	富田林 53.7	大東 9.2	茨木 59.8	吹田 27.2	八尾 2.1	28
29	羽曳野 85.7	高石 29.7	泉佐野 295.1	高石 47.1	藤井寺 9.4	高石 59.5	大阪狭山 25.3	吹田 2.6	29
30	四条畷 84.5	藤井寺 29.3	摂津 294.5	交野 46.4	阪南 9.6	吹田 59.1	高槻 24.9	茨木 2.8	30
31	河内長野 82.2	交野 29.2	大東 288.9	四条畷 42.2	門真 10.0	豊中 58.9	箕面 24.4	泉大津 2.9	31
32	交野 78.6	大阪狭山 27.9	泉南 284.6	柏原 41.3	泉南 10.1	箕面 58.7	池田 24.2	東大阪 3.4	32
33	阪南 76.7	四条畷 27.6	門真 279.8	阪南 40.0	松原 11.5	池田 58.4	豊中 23.0	大阪狭山 4.2	33

③ 安全を支える仕組みの必要

順位	⑭介護老人施設定員数(65歳以上人口100人当たり)	⑮人口1万人当たり医師数	⑯人口1万人当たり病院・診療所数	⑰人口1万人当たり交通事故発生件数	⑱世帯当たり乗用車保有台数	⑲1万世帯当たり建物火災出火件数	⑳人口1万人当たり刑法犯認知件数	順位
	単位 人	単位 人	単位 所	単位 件	単位 台	単位 件	単位 件	
1	四条畷 4.04	大阪狭山 105.3	大阪 13.8	四条畷 41.7	泉南 1.1	泉大津 2.5	河内長野 111.7	1
2	羽曳野 2.96	吹田 65.8	藤井寺 11.5	高槻 43.2	阪南 1.1	藤井寺 2.5	池田 121.4	2
3	大阪狭山 2.75	守口 43.8	守口 11.0	交野 43.4	和泉 1.1	阪南 2.6	高槻 123.2	3
4	吹田 2.70	高槻 35.7	豊中 10.9	河内長野 44.3	貝塚 1.1	富田林 2.6	阪南 128.4	4
5	箕面 2.69	大阪 35.3	池田 10.8	高石 44.8	泉佐野 1.0	摂津 2.7	交野 140.1	5
6	泉南 2.69	和泉 27.1	泉大津 9.6	吹田 46.5	河内長野 1.0	八尾 2.8	枚方 142.3	6
7	摂津 2.66	泉佐野 26.7	大阪狭山 9.6	豊中 47.7	岸和田 1.0	吹田 3.1	豊中 147.6	7
8	大阪 2.65	池田 26.1	高石 9.5	阪南 49.3	富田林 1.0	茨木 3.1	柏原 156.7	8
9	東大阪 2.44	枚方 24.7	門真 9.4	藤井寺 51.7	大阪狭山 1.0	守口 3.2	箕面 162.7	9
10	交野 2.44	河内長野 22.1	泉佐野 9.2	守口 51.8	交野 0.9	高槻 3.3	吹田 163.1	10
11	和泉 2.43	堺 22.0	箕面 9.2	和泉 52.3	羽曳野 0.9	箕面 3.5	四条畷 164.0	11
12	富田林 2.42	岸和田 21.4	吹田 9.1	柏原 53.4	泉大津 0.9	羽曳野 3.7	羽曳野 168.8	12
13	枚方 2.38	箕面 21.4	堺 9.0	大東 53.6	箕面 0.8	池田 3.8	茨木 171.4	13
14	茨木 2.37	豊中 20.1	東大阪 8.9	池田 54.4	柏原 0.8	大阪狭山 3.8	貝塚 173.4	14
15	池田 2.29	羽曳野 20.0	茨木 8.8	門真 54.5	高石 0.8	大東 4.1	寝屋川 174.8	15
16	高槻 2.28	富田林 19.9	八尾 8.4	羽曳野 55.2	四条畷 0.8	豊中 4.3	富田林 176.1	16
17	和泉 2.28	高石 19.5	高槻 8.3	寝屋川 56.8	堺 0.8	四条畷 4.3	高石 181.1	17
18	阪南 2.28	八尾 18.6	富田林 8.1	八尾 58.5	摂津 0.8	泉佐野 4.7	大阪狭山 184.8	18
19	泉佐野 2.25	柏原 18.6	寝屋川 8.1	茨木 59.5	藤井寺 0.8	河内長野 4.7	和泉 189.2	19
20	高石 2.18	泉大津 18.3	岸和田 7.9	松原 60.0	枚方 0.8	寝屋川 4.8	藤井寺 189.4	20
21	堺 2.17	東大阪 18.1	松原 7.8	枚方 60.4	松原 0.8	交野 4.9	泉佐野 190.0	21
22	河内長野 2.17	貝塚 17.8	阪南 7.8	大阪狭山 60.9	八尾 0.8	枚方 4.9	摂津 195.1	22
23	八尾 2.16	藤井寺 17.8	貝塚 7.7	摂津 61.0	池田 0.7	松原 5.1	八尾 195.7	23
24	藤井寺 2.13	松原 16.4	河内長野 7.7	泉南 61.1	茨木 0.7	和泉 5.2	岸和田 198.8	24
25	泉大津 2.12	門真 16.4	枚方 7.5	大阪 61.5	大東 0.7	門真 5.6	泉南 199.7	25
26	大東 2.10	茨木 16.3	柏原 7.3	東大阪 61.5	高槻 0.7	泉南 5.6	堺 205.9	26
27	柏原 2.08	寝屋川 15.1	摂津 7.1	箕面 62.4	東大阪 0.7	柏原 6.0	門真 210.2	27
28	守口 2.06	四条畷 13.7	大東 7.0	堺 63.7	寝屋川 0.7	堺 6.1	泉大津 211.6	28
29	門真 1.88	大東 13.5	和泉 6.9	富田林 65.4	吹田 0.6	高石 6.1	守口 219.6	29
30	貝塚 1.82	泉南 11.5	四条畷 6.7	泉大津 66.9	門真 0.6	貝塚 6.1	松原 221.2	30
31	寝屋川 1.77	阪南 11.4	泉南 6.5	泉佐野 76.1	豊中 0.6	大阪 6.3	東大阪 244.8	31
32	松原 1.59	摂津 10.8	交野 6.4	岸和田 77.1	守口 0.6	東大阪 7.0	大東 273.3	32
33	岸和田 1.38	交野 9.2	羽曳野 6.2	貝塚 78.9	大阪 0.4	岸和田 7.3	大阪 284.4	33

問 8 あなたの地元について、下記の項目はそれぞれ、どの程度あてはまりますか。

	よく あては まる	まあ あてはま る	あまり あてはま らない	あてはま らない
(a) 自然が豊かで空気がきれい	1	2	3	4
(b) 交通の利便性が良い	1	2	3	4
(c) 日常生活品の買い物がしやすい	1	2	3	4
(d) ほどよく便利で自然もありバランス が良い	1	2	3	4
(e) おしゃれな飲食店が多い	1	2	3	4
(f) 友人・知人などの人間関係が充実して いる	1	2	3	4
(g) 町並みがきれい	1	2	3	4
(h) 文化・スポーツ施設が整っている	1	2	3	4
(i) 子育てしやすい環境である	1	2	3	4
(j) 治安が良く、安心して暮らせる	1	2	3	4

問 9 あなたが和泉市に住んでいて、あって良かったと思うものを何でもあげてください。
建物、施設、お店、イベント、自然、公園などについて、具体的にお書きください。

問 10 あなたの地元にあって、和泉市はないもの、和泉市にもあってほしいと思うものを、
何でもあげてください。建物、施設、お店、イベント、自然、公園などについて、具体的
にお書きください。

問 11 「和泉市にあってほしい、もっと充実させてほしい」とあなたが思うものを以下の
項目から選んでください。あてはまるものすべてに○をつけてください。

a. カラオケ	d. スポーツができる公共施設	g. お気に入りのブ ランド店
b. ゲームセンター	e. 地元の人と交流する機会	h. 交通（バス）
c. 映画館	f. 居酒屋・飲食店	i. 交通（電車）

問 12 あなたは和泉市で行われている以下のイベントを知っていますか。また、そのイベントに行きたいですか。それぞれのイベントについてお答えください。

	知っていますか	行きたいですか
(a) 和泉中央駅前のイルミネーション	1 はい 2 いいえ	1 はい 2 いいえ
(b) 和泉市歴史ウォーク (和泉市の歴史ポイントを巡り、和泉市の歴史にふれるウォークイベント)	1 はい 2 いいえ	1 はい 2 いいえ
(c) 和泉の国グルメグランプリ (スイーツやハンバーガーなど 29 店舗が出店し、和泉市産の農作物を使用した様々なグルメを味わえる。今年度は桃山学院大学が会場)	1 はい 2 いいえ	1 はい 2 いいえ
(d) 謎解き宝探しイベント『リアル宝探し』 (和泉市熊野街道周辺で、宝の地図の暗号を解読し、実際に隠された宝箱を探す体験型ゲーム)	1 はい 2 いいえ	1 はい 2 いいえ
(e) いずみ音楽祭 (和泉府中駅前通りを歩行者天国にし、音楽・ダンス・ファッションショー・フリマなどを開催)	1 はい 2 いいえ	1 はい 2 いいえ

問 13 あなたは、将来、和泉市に住みたいと思いますか。もし大阪に住むことになったと考えて、＜独身のとき＞と＜家族をもったとき＞の両方について、お答えください。その理由もお答えください。

＜独身のとき＞

1. <u>ぜひ住みたい</u>	2. <u>まあ住みたい</u>	3. <u>あまり住みたくない</u>	4. <u>住みたくない</u>
------------------	------------------	---------------------	------------------



＜住みたい理由＞（1、2 を選択した方）



＜住みたくない理由＞（3、4 を選択した方）

＜家族をもったとき＞

1. <u>ぜひ住みたい</u>	2. <u>まあ住みたい</u>	3. <u>あまり住みたくない</u>	4. <u>住みたくない</u>
------------------	------------------	---------------------	------------------



＜住みたい理由＞（1、2 を選択した方）



＜住みたくない理由＞（3、4 を選択した方）

問 14 あなたは、何があれば、和泉市に住み続けたい、将来住みたいと思いますか。＜独身の時＞と＜家族をもちた時＞の両方について、お答えください。

＜独身の時＞

--

＜家族をもちた時＞

--

《資料3》観光未来像（ワークショップ結果）

第1グループ

図1-1：調査前ワークショップ「和泉市の強みと弱み」の結果

強み			弱み		
ゾーン分類	項目(強み)	項目(弱み)	ゾーン分類	項目(弱み)	項目(強み)
平和・環境	平和 環境がいい きれいな山の方は空気が綺麗そう 自然が多い		子ども達の遊び場所がなくなっている	遊べるところがない (3票) 公園が少ない 公園が小さい	スケボーできる場所が一応ある
便利	生活しやすい 飯屋多い 駅が綺麗 施設が充実している 空港近い		デメリット	飲食店が少ない (2票) 騒音がある 喫煙所が多い 信号変わるのが遅い 自然が少なそう 路上駐車が多い 海側は工業地帯で空気が悪そう	
人口	人が多い (3票)	年齢層高い 住宅密集のため人間関係が大変そう	交通	和泉中央が不便 JRない 歩きじゃしんどい 北と南遠い	南海とJRとも快速とまる
住宅	マンション多い 高級住宅街	土地が高そう			
桃山	大学に近い 桃大ある (2票)				
力入れ	コストコ (2票) ららぽーと (2票) 大型の商業施設ができた				

図1-2：調査後ワークショップ「和泉市の強みと弱み」の結果

強み			弱み		
ゾーン分類	項目(強み)	項目(弱み)	ゾーン分類	項目(弱み)	項目(強み)
大学	大学がある(4件)	大学周辺はうるさい	交通	南海バスの運転手の接客が悪い 坂道が多い(2件) 歩いてだどこにも行けない 車がないと生活しにくい 交通費が高い	交通の便が良い(3件) 交通が充実している
商業	ららぽーと・コストコ(5件) 大型商業施設の増加(2件) エコー和泉		環境	海が汚い 遊ぶところが少ない(2件) カラオケが少ない 若者にとっては田舎 なにもない場所にはなにもない	自然がいっぱい
人口	人口増加(3件) ファミリー層から高齢者まで みんなが住みやすい				
観光	だんじり祭がある(2件) 特産物が多い	万人受けする観光地がない 特産物があまり知られていない			

※記載されていた文章

交通面では充実している。しかし、その分交通費が高い・接客が悪いというデメリットがあるが、これは修正のしようがないのでプラスマイナス0と考える。
環境面では遊ぶ場所が少ないというデメリットがあるが今現在ららぽーとやコストコなどオープンしているので、これからどうなるか期待がある。
その分、自然が汚くなるという面もあるが、そこはボランティアなどで修正していけばいいと思う。
観光の面でのデメリットでもある、特産物が知られていないという面は修正できると思う。

第2グループ

図2-1：調査前ワークショップ「和泉市の強みと弱み」の結果

強み	
ゾーン分類	項目(強み)
治安	治安が良い 明るい イベント きれい
交通	交通の便がよい 交通が豊富 ベッドタウンに最適
便利	飲食店が多い 店が多い 大学が近い 大学があるということ
人	人口が多い 家が多い 子供

弱み	
ゾーン分類	項目(弱み)
遊び	遊ぶところ(2票) 遊ぶところが無い
環境	高齢者 田舎

※交通の便がよいので、人口が集まりやすく、都会にも行きやすい。
また、治安が良く、イベント等もよく開催されている。
飲食店が多く、駅から大学が近いことは便利だが遊ぶところが少ない。

図2-2：調査後ワークショップ「和泉市の強みと弱み」の結果

強み	
ゾーン分類	項目(強み)
商業施設	大型商業施設がある コストコ・ららぽーとがある(4件)
景観	街がきれい 緑が多い 和泉府中きれいになってきた
交通	和泉中央駅から座ってミナミに行ける 和泉中央駅からなんばまで近い
飲食店	駅近でお酒が呑める 飲食店が意外と多い 安く食事できる 意外におしゃれなカフェがある
桃大	桃大がある 大学があるため学生が集まる
遊戯施設	ラウンドワンがある
土地	広大な土地がある
店	スーパー・コンビニが多い

弱み	
ゾーン分類	項目(弱み)
交通	コストコ・ららぽーとができたことで道が混む 大学に行くまでの道が途中車線になって混む バスが使いにくい 坂多い 和泉中央、不便 JRに乗るため府中まで行かないといけない バイクか車がないと移動が大変
遊戯施設	遊び場少ない 遊べる施設が少ない 遊ぶところがない
マック	24時間ではなくなった
気候	寒い
有名人	有名人が2700なこと
気候	寒い
治安	警察が多い

第3グループ

図3-1：調査前ワークショップ「和泉市の強みと弱み」の結果

強み		弱み		
ゾーン分類	項目(強み)	ゾーン分類	項目(弱み)	項目(強み)
景観	街が新しいのできれい 街並みがきれい 道がきれい 住宅がきれい	交通	和泉市に来るまでの電車賃が高い(2票) 車が多い 中心地に行くまで遠い 遠い	交通手段が多い バスの出発数が多い
治安	比較的治安がいい (2票) 落ち着いている	施設	駅を少し離れると施設が少ない 遊ぶところが少ない (2票) アミューズメント施設が少ない 大学の数が少ない	
環境	住みやすそう 森林が豊富	その他	全体的に年齢層が高い 水が美味しくない	
活気	駅周辺が賑わっている 最近色々な店が建てられている			

図3-2 調査後ワークショップ「和泉市の強みと弱み」の結果

強み			弱み		
ゾーン分類	項目(強み)	項目(弱み)	ゾーン分類	項目(弱み)	項目(強み)
環境	道がきれい 街がきれい それほど暑くない 治安が良い 自然が豊か 市の面積が比較的大きい	寒暖差が激しい	交通	JRが通っていない 電車賃が高い(2件) 道が混みやすい 中心地まで遠い 車がないとダメ	交通手段が豊富 交通手段が多く便利 電車一本で市街地へ行ける
施設・商業	SCが増えている(2件) ショッピングモールが多い 大阪唯一のららぽーと 大型施設が出来てきた 都市開発が進んでいる 福祉が比較的充実している	アミューズメントスポットが少ない 遊ぶ場所が少ない(2件) 遠い	観光	観光スポットの印象が弱い 和泉市といえばこれというのが少ない これといった行事がない 特徴がない	歴史的な美術館等が意外にある
			世代	高齢化(3件) 若い世代が少ない	子育て世代が増えている 人口増加している

第4グループ

図4-1：調査前ワークショップ「和泉市の強みと弱み」の結果

強み			弱み		
ゾーン分類	項目(強み)	項目(弱み)	ゾーン分類	項目(弱み)	項目(強み)
施設	ファーストフード等手頃な店が多い 図書館 昔からの商店街が残っている 商業が発展している コストコ ららぽーと コンビニが沢山ある だんじり祭	遊べるところが少ない カラオケが意外と少ない	交通	交通費 交通手段 位置 交通が不便(坂道が多い)	交通の便がよい 空港に近い
人	若者が増加 マンションが多く建築されている 人口が増えている	高齢化が進んでいる	自然	自然が少ない 海が汚い	自然
大学	大学がある (2票)		イメージ	暗い 不便	楽しい

※和泉市は人口が急激に増えた分、大学や施設等が沢山あるが、建築された場所が悪く交通の便があまりよくない。
そして和泉市は広いので施設が点在しているので一つに集まることはない。
人口が増えた分、施設も増やすので自然が少なく海も汚いのが現状である。
このことから考えればイメージはあまり良くないが、今後ららぽーとやR1などができるのでその経済成長に期待する。

図4-2 調査後ワークショップ「和泉市の強みと弱み」の結果

強み		弱み	
ゾーン分類	項目(強み)	ゾーン分類	項目(弱み)
環境	自然豊か 静か 安全 町 きれい	観光地	観光地 魅力 有名な観光地が少ない
商業	増加した商業施設 最近ららぽーとができた コストコがある	若者 環境	遊べるところが少ない(2件) 寒い(和歌山より) 海がない
その他	交通 住宅が多い イベント ファミリー	人	お年寄りが多い 高齢化

※記載されていた文章
環境面ではきれいな町を維持できるようにボランティア活動を行う
商業面ではららぽーととコストコなどを活かして他県からもっと人を集める
しかし、観光地などに魅力があまりないので、遊ぶ施設をもっとつくることで若者を集める

< 市長 報告会時使用資料 >

《資料4》郷土愛醸成（北野政吉氏聞き取り記録）

【日時】2014年10月12日（日）11:00～12:00

【場所】北野木材（和泉市大野町）

【記録作成】池田亮介

【作成日時】2014年11月27日（木）

北野：南横山地域は、大野、側川、父鬼で2700町歩ある。

島田：1町歩＝1ヘクタールですか？

北野：およそ2700ヘクタールある。森林台帳の数字。昔で言えば、2700町歩。

島田：「町」という字と「歩」と書いて町歩ですね。

北野：そのうち植林している山が80%ぐらいある。スギ・ヒノキ。1945年の終戦、それから5年くらい経った時期のこと。1950年ぐらい。大阪が空襲で全部焼けたのが背景。その時に、木材が不足したと言うことで、植林のために政府から補助が出た。それが今、この実態。およそ60年生（せい）ぐらいの山が多い。その時どうやって植林したかという、雑木林をみな切った。昔は、その雑木林を炭にしていた。それでみなごはん食べてたわけだが、その後、空襲あった時に杉・檜を植えた。

島田：80%が植林ですか？

北野：植林です。

島田：その前はおおかた雑木林？

北野：雑木林が多かった。松林が多かった。僕ら子供の時よく松茸が採れた。

島田：そうですか。今ほど高級なものでもなかったですね？

北野：で、小学校行くときよく親父に食べさせてもらった。

島田：ほか雑木林にはどんなものが生えていましたか？

北野：クヌギが多かった。クヌギにシイ、カシ、そんなところ。

島田：炭にしていたのはクヌギ？

北野：クヌギとかカシも。今、小学校でやっている。

島田：南横山小学校で子どもに体験させているそうですね。

北野：そして白炭と言って、灰で最後に火を消す。それで白炭になる。備長炭と言うのは窯で冷やす。一番いい炭は紀州の備長炭。バベの木や。垣根によく使われている。

島田：この辺は、クヌギやカシを白炭にしていたのですか？

北野：白炭や。それを今の堺や和泉府中あたりに持って行った。それで、私たちが子供の頃、おじいちゃん、おばあちゃんがそこへ物持ってきていた。物々交換。それで、荷車で運んだわけです。昔は車がないから。

島田：馬ですか？牛ですか？

北野：いやいや、人力。今でいうリヤカー。

島田：父鬼街道を？

北野：そうそう。父鬼街道とか、春木川から下りて、ずうっと、寺門あたりまで行ったらしい。遠いところでは堺まで行った。その前は、親父の時代は、かまぼこ板。杉の木で。かまぼこ板とか樽。味噌樽とか酒樽。酒樽ならこの向こうに、積川に酒屋が

ある。そして辻林という酒屋もある。そこらへもよく行った。別寅のかまぼこがあの辺にある。

島田：岸和田ですか？それ。

北野：うん。かまぼこ板はな。

島田：岸和田は漁村ですから。

北野：漁村やから、昔かまぼこが多かった。

島田：魚肉を加工して？

北野：うん。

島田：そういうところへ板を供給していた。

北野：そう、板を。かまぼこ板。

島田：それを加工するような？

北野：加工ではない。昔は割ったもの。目通り。それは製材等の問題とは違う。

島田：今みたいな、かっちりした板ではないのですか？

北野：ちがう。繊維通りに割っていく。それを加工する。

島田：樽も一緒ですか？

北野：樽も目通りに割る。それを製品にした。

島田：原木を供給した？では、父鬼から出るのは全部原木？

北野：原木。戦後から製材所が出てきたらしい。昔は、水車があったらしい。

島田：水車を動力にして製材をする？

北野：製材をする。この辺で。父鬼町の上流で。今は 60 年生から 80 年生の山が増えた。もう伐採時期が来ている。間伐をしていない。今、間伐をしようとして、林業計画を作成して大阪府の指定を受けている。国の補助金をもらって。だいたい 1 年間に 500 立方くらい出る。18 センチの原木で 0.1 立方メートル。原木 3 メートルの 18 センチで。それから柱をひく。立木 1 本で長さ 4 メートルの原木が 3 本取れる。

島田：それを間伐やってないということですから。

北野：そうそう、よく伸びている。

島田：太いのが育ちにくい。

北野：そうそう。畑物と一緒に。畑も山も一緒に。畑も大根を細かく植えたら細長いのができて太くならない。今、おおさか認証材と言って、平成二十何年からかやっている。おおさか材というもの。それを大阪の行政で認めてもらわないといけない。今、和泉木（いずもく）という、和泉木の木を、大阪産（もん）にも登録してあるねん。和泉木っていう商品名で登録してある。去年ぐらいかな。

島田：河内材とは別ですか？

北野：河内材と和泉材と別に分けてある。その地域のブランドにしている。生き残り策。おおさか材増えてから消費が増えた。大阪市内でも注文増えた。これが現実。

島田：ウッドデッキというとホームセンター等にあるもの？

北野：これは、住宅メーカーの三井ホームとか住友とか。値段は、2 割ぐらい高く売れる。おおさか材になったら。

島田：それでも買おうという人は、出てきている？

北野：それは、今でいう、ポイント制というものがある。住宅のポイント。そこへ絡める。

おおさか材使ったらいくらの補助金が出ますよ、というような。

島田：府は、一応そういう和泉木なり河内木なりの、その市場へ流通させるために補助しているって？

北野：いろんな形でね。おおさか材作るのが生き残り。なんでも生き残ろうと思ったら、考えて、ちゃんと自分らが、行政に話しに行かなければならない。

島田：府と交渉したり？

北野：僕、みな交渉した。証書ももらってある。なんでも登録するのに交渉しなければならぬ。5年かかった。

島田：それはこの辺の同じような製材業者も。

北野：9社入ってる。河内で4社。大阪府内で13社。

島田：その9っていうのはほとんど父鬼の？

北野：そう父鬼と横山が2社。森林組合1社。あと6社が地元や。

島田：それはこういう運動とかは？

北野：初めはしてなかった。

島田：では個別に？

北野：俺が規約まで作ってきた。役所と。おおさか材が認証日本で一番難しい。山の事業に携わって、そういう団体に入らないといけぬ。林業協議会という団体。その協議会に入って山のことちゃんとやっていって、次に、その団体で認めてもらって、和泉市の認めをもらって、そして、大阪府の認定もらわぬといけぬ。だから、3つクリアしなければならぬ。その3か所に行こうと思ったら、地元に参加しなければならぬ。だから難しい。ちょっときつめにした。そして、10年の製材業の営業実績が必要。

島田：ぼっと出来た業者ではだめなわけですね？

北野：ダメ。だまかしが入る。それをしたらダメなように10年の製材業を証明するものが必要。税務署なり、和泉市なりの各行政の認めがなかったら認証されぬ。素人に入ってもらったら困る。詐欺がありうる。その登録書を利用して。大阪産は登録の仕方によったら誰でも入れる。これは完全な地元の生き残り策やで。TPPでも対応できるようにしてある。行政がおおさか材でと指定したら13社で納材できるということや。

島田：府が公共的な建築なり土木の需要におおさか材を指定してくることがあるのですね？

北野：小学校の耐震工事がそれ。和泉市が去年9校、今年が1校。耐震の他、トイレの木質化。緑ヶ丘のトイレは檜の板を張ってある。あれはおおさか材の和泉木で指定してあるはず。行政が。去年だけで1万枚作った。張り板。便所の内装材、9社で。

島田：トイレを木質化したらどんな効果が？匂いとかですか？

北野：檜は頭の活性。杉は安眠効果がある。

島田：そうして、こういう府の認定登録事業者制度、こういうのを活用しながら生き残っているという。

北野：そうそう。で、若い者でも林業に携わる人が出てくるはず。こういう証明がなかったら、東大阪の町工場と一緒に、いつポシャリいくかわからない。けれども、こう

いう制度を作っていったら、ある程度は食べられる。

島田：北野木材さんが扱っている比率は、この辺の地元の材と、市場へ競りに行くのとどれくらいの比率ですか？

北野：50：50や。

島田：現状ではあまり間伐もされてないということですね？だから、良い木を探すのは大変ではないのですか？

北野：いやいや。だいたい、あそこの山は枝打ちしてある、手入れしてないとわかる。行かなくても、名前聞いたら昔の感覚でな。

島田：その昔の感覚というのはどのようにわかるのですか？

北野：立木でわかる。節見たらこの木枝打ちしてあるかわかる。

島田：枝打ち等は今現実にどういう人が担っているのでしょうか？

北野：今はやってないな。年寄が多い。70歳ぐらいの人が多い。

島田：昔からそれで生計を立ててきたような？

北野：そうそう。過疎化している。十津川でも吉野でも。今吉野ではヘリコプターで木を出す。1日に1時間で25万円。大型ヘリなら1時間100万円。吊って下すのに往復2分半以内。それ以上かかったら赤字。

島田：十津川は良い木ありますか？

北野：もう今はない。減った。良い木は吉野。大径木が減った。50センチ以上の木が減った。良い木は何千万する。市場で最高1200万の木を買ったことがある。今の実態はこれ。去年大阪で、27,000軒の家建ってる。これを大阪材で供給したら1割で山が裸になる。柱は、だいたい家1軒、建売で70本ぐらい使う。1坪、3.3平米に2.5本。

島田：その本というのは、根元から上までをそれを1本とみるのですか？

北野：いやいや、3メートルで1本。27,000軒建ってそのうちの1%でも裸になっていく。大阪だったら面積少ないから。

島田：今の大阪の需要を全部満たそうとすると裸になると。

北野：うん、裸になる。森林破壊起こす。広島みたいに風水害になってくる。やはり、ある程度の基本でも作っておかないことには、無茶苦茶な業者が、10%、15%さばいてやったときは、やばい。10年20年先裸になる。大阪で1年間消費できるのは山だけでだいたい5,000立方しか売ることができない。この間も、愛知県で10万立方の木が出てくる。岐阜で30万立方出てくる。全然規模が違う。大阪は、森林面積46番目ぐらい。まだ東京のほうが多いはず。

島田：多摩など？

北野：上流がある。高尾山や秩父もあるし。一番多いのは、長野県と岐阜、和歌山県も広い。90%が山。昔、十津川村だけで、車に乗って2時間かかった。日本で一番広い村や。これも99%山。

島田：今の需要と供給満たすくらいなら十分ですか？

北野：十分。正味生産していくことができないと思う。これ以上増えたら。うちも問い合わせは多いけど供給できない。そのくらいのほうがよいのだが、山を守ろうと思ったら。供給は多いが、需要は少ないのは他府県。岡山とか四国。だから大阪、東京

は集中してくる。だいたい大阪は、99%は他府県材だった。四国、九州が多い。そして、岡山、広島が、供給多い。材木の供給は。認証制度できてからちょっと向こうがしんどくなっている。プレカット工場で一日に5軒作る。生産したら。機械でやる工場なら、家5軒分加工してくれる。

島田：北野さんのところは原木を買ってきて加工、製材する。

北野：そう、販売するだけ。加工業やな。

島田：森林組合というのは、府とかの監督を受けてる組織ですよね？

北野：いや、ちょっと違う。

島田：業者が連合している？

北野：はっきり言うと、山持ちの人が集まるのが森林組合。

島田：本日はありがとうございました。

(以上)

《資料5》郷土愛醸成（山本博和氏聞き取り記録）

【日時】2014年11月23日（日）16:00～16:45

【場所】父鬼町会館（和泉市父鬼町）

【記録作成者】平松敬介

【作成日時】2014年11月26日（水）

島田：炭ということになりますと、私もそうですけども、学生も全然生活経験としてもうありません。ましてや、生産の過程となりますと、納得というか実感としてちょっとわからないところがどうしてもありますけども、今まで一応、『横山と槇尾山の歴史』の中の、「父鬼の林業」というところとか、そういうものをテキストにして、座学を少しだけしてきた所です。私も一番興味深く思っていますのは、炭焼きが盛んだったころというのは、植林が進む前ということになるかと思うんですね。

山本：そうですね。

島田：広葉樹を使っていますね。ですから、それが本来的なこの地域の植生であり、それがエネルギー源になるわけですね。炭とか。

山本：唯一と言ってもいいぐらいですね。

島田：そうですね。薪や炭になりそして、それを外部に売ること、現金収入になったりするわけですね。ですから、そういう炭というものがこの地域に持った意味というのは大変大きい。1つはこの父鬼にとって炭焼き産業が持った意味ですね。ちょっと漠然としていますが。これ全体をひとつお聞きしたい。もうひとつは、生産の組織、担い手がどういう人だったのかという問題です。そして、山に入って炭を焼く労働、この担い手がどういう人だったのか。その人たちは、古文書によると、地主さんから山を買う、木を買うということをしてきた。そういう風にして自分が一冬に作る山というものを確保してきたということがあられるようです。その仕組み、生産産業の仕組みについてお聞きできればいいなと思っています。

山本：先生がおっしゃったとおり、昔は、林業と炭焼きというのがほとんどだったんで。定：80%。

山本：そうです、80%以上でした。

島田：林業と炭が、この地域の生産の80%以上ということですね。

山本：林業と炭焼きがうちの生業やったわけでね、それよりもないっていえないかもわからんし。生きていくためのこの狭いところで、米も作られないし、まあお金に変えれば米でもなんでも買えるし。

島田：なるほど。

山本：要は材木だけやもん。それもあるし、ずっとたどりますとね、ずっと僕らは知りませんが、古い話ということでお聞きしてます。ここにあるような詩にうたわれていうのを見ても、平安初期から鎌倉時代に出てきた人が詠んだんだから、そのからやってたんだというようなこともわたしらは聞いてるんですけど。その後僕らのひとつ前の代くらいは、田舎であるので、今でも京都にまで流通するのはなかなか大変やと思うんですけどこの時代でも。その時代でも京都の公家さんっていうんで

すか、そういう方が好まれて、そちらのほうへ出していたという話も聞いてますわ。そういう話を聞きながら我々は戦前戦後。私は 1932 年の生まれですけどね。それで学校行ってる時分から、炭焼きがずっと盛んやって、僕の家も親父もその前の代も炭焼きやって。

島田：そうですか。

山本：必然的に僕も何もわからん時分から手伝いさせられたり、小学校の 5、6 年生くらいですよ。それで僕らも手伝いしたりして、学校卒業したわけなんですけどね。ちょうど卒業した時と戦争が終わったときとがいっしょだったんで。

島田：なるほど。1945 年ですか？

山本：そうですね。昭和 20 年に終わりましたけどね、戦争。

島田：ちょうど小学校卒業ですね。

山本：そこから 14、5 年ほど親父と 2 人でやっていたんです。

島田：はい。

山本：先生がおっしゃってくれたどういう構成でやってたかということになりますとね、だいたい炭焼きというのは一人でできないんですよ。

島田：はい。一人ではできない？

山本：やろうと思えば、相当無理が生じてきてね、ロスも生じてくるんで最低限度 2 人以上、コンビでやるか、まあ 3 人でやるか。2 人の場合は親子でやるか、兄弟でやるか、成長した兄弟がやるか、まあ友達と仲間でやるか。

島田：それもありますか。

山本：そういう感じで 2 人だいたい一組になってやつたんですね。

島田：夫婦もありますか？

山本：夫婦もありますけどね、夫婦はまた嫁さんのほうがね、また別の仕事がありまして、木を切った先、昔は何にも捨てるものが何にもなかったんで、木を切ってこのくらいから先のとこ手前しか焼かんでしょ。さきつちよまで焼かんでしょ、だからその枝とかをはなすでしょ、それをまた柴にして、かまどを燃やす柴にするのにね。

島田：それは女性の仕事ですか？

山本：だいたいそうですね。

島田：小枝を切って、束ねてっていうのは、そうですね。

山本：そなんよね、全てみな間に合ったんですね。

島田：そうすると、父鬼だと夫婦よりどちらかということ男の仕事みたいなのところがありますよね。

山本：男の仕事です。超えらい、超重労働な男の仕事です。

島田：そうですね。

山本：朝目が覚めたら早く目が覚めてうれしいなと思って、そうでなくても冬でも 5 時ごろ出て行って、昔は山は歩くばかりでしたから、もう近いところで 1 時間、遠かったら競争でだんだん山切ってなくなってきたんで 2 時間くらいとこまででも、県を越県してまででも買って。

島田：和歌山側まで行くわけですか？

山本：和歌山側も行ったし、滝畑のとも行ったし。

島田：河内の方ですね。

山本：最終的にはね。それくらいいっぱいしは栄えたわけです。炭焼きとしては。それと同時に反面山がなくなってきた。

島田：焼く期間は冬場ですか？

山本：そうですね。秋口からやっぱり 3 月頃まででしょうね。

島田：その間の 1 時間歩いていくとか、そこまでの切った木切ってあったらそれ以上さらに歩いていくとおっしゃってましたけども、家にいるんですか？自宅にいるんですか？炭焼きする人はずっと。山小屋に住まうということとは？

山本：いやいやみな通いです。

島田：通いですか。

山本：うん。まあ山主さんから山を買うわけなんでね、見積もって。

島田：通いなんですね。

山本：だんだんそれが最高 30 軒以上もあったと思いますわ。相当炭がひっ迫してきて。

島田：炭焼きをやってる家が 30 軒以上？

山本：そうです。6, 7 軒くらいなら、あそこ炭焼いてる、あそこさん炭焼いてるということがまあ基本というたらおかしいですけど、そんなわけなんですけどね。臨時的に戦前戦後、特需っていうか増えてきましてね。他にもしよってね、それやるとみんな売れていくし、お金に代わるし。

定：自動車も炭で動いたんやもん。

山本：その時代自動車だって炭で動いたんやもん。

島田：石炭自動車、木炭バスですね。

山本：木炭バスや自動車やってな。炭はよう出たよ。

島田：石油がないから。

山本：そうです、そうです。

島田：今特需とおっしゃったのは、いわゆる朝鮮戦争の特需でよろしいですか？特需とおっしゃいましたけども。

山本：いやあの、そういうのじゃなくてもう、戦中戦後だいたい 30 年ごろまではいわゆる、燃料革命というか、まず石油が出てきて、そこからプロパンガスがでてきて、そして電気っていうんですけども。それに従って段々炭が売れんようになっていくわけなんで。その前ね。

島田：その前ですね。戦時中からとにかく物資が不足していたころのことですね。そうですか。では、そのころには最大で 30 軒くらいのおうちが炭焼きを？

山本：ありましたね。

島田：ここで炭焼きをやっていた。

山本：そしてもうね、晩になると山からみんな降りてくるんですけど、山からこう通いが歩いてくる、やまぜって言って、村の中でも炭焼きの煙の臭いがね、充満してるんですわ。

島田：やまぜで煙が降りてくる。

山本：そう。今日はうまいこと行ってるなとかそれで判断したり。

定：炭焼きって臭いでかえたもん。煙の臭いで。

山本：そのくらい栄えました。

島田：山本さんは小学校を卒業されてお父さんと一緒にやっておられた。

山本：30年頃までですね。

島田：昭和30年ころまで。そのあたりが全盛期と言ってよろしいのでしょうか？

山本：そうですね。もうこれも売れんようになってきたら、他に何も使い道ありませんからね。

島田：炭は。

山本：はい。今はまた、逆に炭なんかでも、黒炭焼いているところなんかにも、ぼくも見学に行ってきましたけどね、砕いてしまつてね炭を、せっかく焼いた炭を、この田んぼとか池の下に入れるとかして活性化をはかる。

島田：浄化する。

山本：そんなんでまた相当の販路がまた、今まで程ではないけども。

島田：そうですね。

定：昔はな炭砕いてな。

山本：やるくらいな。やれるらしいです。

定：工場行ってやいでな。

松葉：その当時の時代背景によるんやけどね、その炭の単価っていうのは、まあ当然戦中戦後なんばかその当時の時代事情とともに単価もそら変わったと思うんだけど、目安として何ぼくらい？

定：1俵4貫目ぐらい。

松葉：1俵で売るんか、目方で売るんか。

山本：いやいや15キロに入れて。ススキで作ったことあるんですけどね、それに15キロ入れてね。

松葉：4貫目。

島田：4貫目ですか？

山本：4貫目。あのね、それまで4貫目で言ってたんですけどね、とにかく戦争が始まって終わりころになると相当物資がなくなってきたね、炭焼きもちゃんと調べられて統制されたので、その時5キロって初めて言うようになったですわ。

松葉：今の学生さん1貫目って何かわかるかな？1貫目は3.75キロやな。

島田：3.75キロですね。

松葉：ほなその15キロ、4貫目やけど何ぼくらいいったんやろその当時で？

山本：その時大体15キロで6俵くらい出すんです。15キロがね。そして、くず炭が1俵くらいできるんです。それが大体基準で。

島田：それが4俵分ですか？

山本：15キロが6俵くらいです。100キロ近くの分が出るんです。

定：ちょっと大きな窯やったら8俵は出た。

松葉：15キロは1俵やな。

山本：そうです。そやから100キロくらいのもんがでるんですね。話が逆になりますけど、それを出すには約10倍くらいの木がいるんですわ。約1トンくらいのね。

島田：一冬に100キロくらいのものが生産されるという？

山本：1 日です。

島田：1 日ですか？

山本：その繰り返しですわ。

松葉：1 日の木を入れて出す目安の量が 6 俵っていうことやな。

山本：そのくらいで最低限度日当が保つてゐるかなっていう。

島田：6 俵で 1 日。

定：それが毎日や。

島田：これを毎日やる。おっしゃったようにこれだけの炭を作るのにその何倍かの木が必要だと。

山本：うん 10 倍ですね。

島田：10 倍。

山本：だいたいこの雑木林っていうのがね、下の方にこの人工林があって、上のほうのこの崖とか、土の少ないところがみな雑木で覆いたったわけですから。下の保水も兼ねてですけどね。

定：山のおほりになるな。

山本：それで、僕らの行くところっていったらとにかく山の頂上まで近くまでいかな、あかんわけだね。よけ仕事が増すわけなんで、1 日に 6 俵焼けたっていうけど、焼けたもんは持って来なあかんのでね、だから力の強いもんが、4 俵天秤棒に荷造りして。

定：16 貫や。

松葉：だいぶくくってるやろな。

山本：だから 60 キロあるわけなんですけど、子どもがそれでも 2 俵くらいかつがされるんです。

定：ちょうど子どもが行ったら、みなそれを負わされてな。

山本：それを 10 年くらいやるとね、親子が逆転して子どもが天秤棒かつぐようになるしね、まあそんな感じで。でないと、山にためておいてもしゃあないし、それよりもこっちからの買い手のほうの要求が大きいでね、もうあてにして待っていてくれるっていう状態ですので、毎日持っていかなあかんわけです。

松葉：1 回の窯入れるの約 6 俵やな。それでずっと年中、年中っていったらおかしいけど、そのシーズン中…。

定：冬場やな。冬場の仕事やな。

山本：それで生計立てたんです。

松葉：さっきのやけど 1 俵だいたいなんぼや。まあ売り先にもよるわな。

山本：大体 500 円くらいやったような気がします。

松葉：1 俵が？

島田：1 俵 500 円ですか？

山本：日当に換算すると、山へ行って 1 日行って日当もらってくるものの、1.5 倍くらいであったとおもいます。

島田：その日当っていうのは誰かに雇われて？山仕事する場合の日当？

山本：そうです。

島田：それはやっぱり地主に雇われるんですかね？

山本：それはまた後で話すると思いますけど、会長さんとかみたいにやってるところへ。

島田：日当の 1.5 倍くらいではないかと。

山本：そうですね。でないと、ただでもどってこないといけない日も大分あるんで。今日炭に火を入れたら明日しかできませんのでね、その日はないですわ。

島田：ええ。そうですね。

山本：だから続けていくほどいいわけで、だから 1 回炭をやこうと思ったら 2 日かかるんですよ。

島田：2 日かかるんですか？

山本：2 回焼こうと思ったら 3 日かかるんです。でも、10 回焼こうと思ったら、11 回でいけるわけなんです。

島田：なるほど。サイクルしていけばね。

山本：だからできるだけいつまでにやろうとするんやけどね、山に生えてる木はおんなじところに生えてませんのでね。

松葉：そういうことやな。

山本：だんだんだんだんと遠なっていくますんでね。

定：山が広いさかいな。

松葉：当然、自分が作った窯よりか移動することもあったん？移動せえへん？雑木を求めて。

山本：雑木を求めてね、人間は移動するけど窯はほっとかなしやあない。

定：そんな移動できるもんとちゃうもん。

島田：かまどは石を積んで？

山本：石って言っても普通の石やったら、「ぱあん」と割れてしまうんで。だから礫岩で。

島田：礫岩？

山本：混じりけのいっぱいある石あるでしょ。そればっかり探してね、形もあるし入口とか煙の抜けるところから作らなあかんので、それにふさわしい石を運んできて、もちろんさっきも言ったように山の 80% から上ばかりですよ。下から煙はいつでもありません。現在の山のかたちはね、戦後の形になってますんでね、そういうところもみんなこの木を植えたんですけどね、前は整然と、上は雑木、下は人工林というようにね。

島田：そうそう。ここもお聞きしようと思ってました。下は植林で、上のほうは雑木があるという。だから、杉やヒノキの人工造林つくるのが下の方という…。

山本：そうですね。やっぱり土もいいし。

島田：下の方が土がいいんですか？

山本：だんだん下へ下って行くんで。

島田：そうなんですか。本来雑木が一方そもそも山に代々あった樹木とかがありますよね。

だから、上のほうが雑木ということは、雑木を残してある。

山本：そうです、そうです。

島田：雑木はもう植林などしないで、いわば自然更新でよろしいですか？

山本：だいたい 20 年でまた新しく、また前と同じようになるんです。

島田：それはまた炭とかに使えるくらいに育つと。

山本：ずっとやってたもんは、また前に行ったところに行ったもんもあるくらいですね。
20年くらい焼いていると。

島田：なるほど。まあ一回りしてくるんですね。

山本：そうですわ。そこが自分の手に入るか入らんかは、別ですね。

島田：そうすると、そのの窯の作る場所もそういう雑木の残っている上のほうになるんですね。

山本：なるんです。そのかまどをどこへすると決めるときにね、相当悩むんですね。炭焼きをすると水がいるんでね。

島田：水がいるんですか。

山本：水いりますわ。やっぱり口に泥塗って口を閉めたり、いろいろ

島田：粘土で漆喰みたいに固めるから。

山本：そんなんで、水運ぶのも毎日の仕事だしね、それからかまど作るために土がどこにあるか石がどこにあるか、考えて

定：火に強いな。

山本：それもあるし、やりだしたときにそこへ寄せてくるにどんなに便利がいいか悪いかを考えないとあかんし、非常に作るときにいろいろ地形みたり、物品みたりしてね、考えてやったんです。

島田：山主さんから雑木を買うという考え方ですね、地盤ではなくてね。雑木を買う。その買ったエリアというのは、漠然しているあるわけですよ。

山本：漠然といってもね、木をこうぺっと折り曲げて、真ん中から。

島田：目印になるようにね。

山本：すーっと向こうまで見えるようにやってたんです。

島田：そこは使っていい木のエリアになるわけですね。そのどこかに悩みながら都合のいい場所に石を積んで窯を造った。そこを拠点にして雑木を切りに。

山本：でもその心配は新しいまったく新しいとこをしないといけないですけど、先人たちがそこを見定めて、窯を造ってくれてることがほとんど多かったわけなんでね。

定：残ってるもんな。

島田：そこは使っていいんですね。

山本：はい。

定：昔の人の窯は残ってるよ。

山本：大分助かりますよ。形つくるのも。

定：特にこしらえてなるし、ちゃんとしてあるさかいそりゃ便利いいよ。

島田：逆に自分が作ったものも将来誰かが使うかもしれないし。

山本：今でこそ、そのへんに雑木でもなんでもっといい木でもほってますけどね、その当時ですわね、山を全部切って買った飼い主から、裸にしてしまうのを3月までにやってしまわんとね、山持ちがちょっと怒ってきますんでね。なんでかというとなね、3月4月になりますとね、芽が出てくるんですよ。その時にね、上から木を切ってきて出た芽を全部倒してしまうと、1年おそなりますんで、そのくらいきちっと考えてましたわ。3月までに空けるようにって。

島田：次の春から育つ芽は大事にせなあかんから。

山本：そうとう昔は大事にしましたわ。

島田：そうですか。この炭焼きの人が雑木をいわば切り倒すのはのこぎりですか斧ですか？

山本：のこぎりと斧です。のこぎりと斧と鎌です。細いやつは鎌で

島田：枝を掃う。

定：だいたい鉈やな。

島田：鉈。使いますよね。

山本：1 人親父が窯で朝行ったら中に入っている炭を、お昼ごろに出せるように空気穴をつくって、いれて加減しながらね、次に入れる木を束ねて、小さいやつは束ねて、大きいやつは割って、用意しとくんですね。もう一人の人は、あくる日のやつを上へ切りに行つて、ちょうどお昼になると下へきて、2 人で出し入れをして、昼からまた出たやつを下で守りするもんが荷造りして、燃やしながらね、燃やしながら荷造りして、もう一人は上で切ったやつを下へひきずってきて、明日の分としてちゃんと並べるわけなんです。

定：炭焼きは休む間ないわ。

山本：そういうもんを 10 日くらいやると、だんだん遠くなってきてね、力では及ばなくなってくる。そうするといったん窯やめてね、2 日くらいに親父もいっしょに山で切つて、そばまでよせてこないかん。その日の日当がないんでね。だから、さっき言った 1.5 倍くらいにならんとあかんわけなんです。やってるとき。

松葉：ほなその当時なこの地域でな、もっともこの炭に適した雑木、それはなんでもええってわけにはいかんわな。

山本：いや。何でもやるんです。何でもやってその山を素っ裸にしてしまうんですからね、だから、何でもやるんですけど、いい木悪い木ってありますわ、やっぱり。炭に向く木と火力が弱いとか、一般向きせん。そういうやつは、木に火をつけて燃やさなあかんので、3 時間 4 時間そんなんに使うんです。

定：焚き付けに使うんやな。

島田：焚き付けに使うんですか。

山本：それもまた要りますしね。たとえ悪いって言ってもね、クリの木とかね、ネムの木って言って、そんなんが悪いんですよ。

島田：クリやネムは向かないんですか？

山本：向かないんです。それは燃やす時に火の当たる場所に入れるとか、いろいろ使い道があるんです。

島田：向いているのはどんな木ですか？

山本：向いているのは、コナラ、カシ、バベとかね。ウバメガシっていうんですね。そんなんが代表的ですけど。そのあといっぱいカエデとかあります。ソヨゴとかチシャとか。それから、みなさんが一様にいうサルスベリとか。みんないいです。

定：あの固い木がええけどな。

島田：売るところもお聞きしたいです。そういうサイクルで 2 人一組でちゃんと時間や役割を分担してやっていると、販売はどこへ入ってくるんですか？ある程度焼けたら焼くのを休んで？

山本：そうですね。その昔は僕らも知りませんが、村の中では 5、6 軒しか焼いていま

せんので。すべてが炭か薪ですからね、燃料にしても、暖房にしても。村の中だけでもだいぶ注文をうけて、次うちくれよ、次うちくれよ、適当にやってたし。それから下の方へ売りに出たし、それから僕らがやってるときは、山から持って来ると自転車持って待っててくれるんです。

島田：町から買いに？

山本：そうです。町というより隣の村から買いに来てね、それをまたこれを和泉府中とか泉大津とかにうまいことばらまいてくれるわけです。なんぼあっても足らんわけです。

島田：横山の人が仲買みたいなの？

山本：売る心配は僕らがやる時はなんにもいらないわけです。

定：女の人もずっとリアカーでひいて売りに行ったもん。

島田：山本さんたちが実際に売りに行くのではなくて、横山の人とかそのあたりでさばいてくれるとか、和泉府中とか大津とか堺へ？

山本：お金もするし、下でお米とか穀類とか買ってきてね、炭持って行くと何でもくれるので、その時代は。それをまたこっちで売るわけなんですよ。僕らかって、あまり売らないで自分のうちに蓄えといて、休みの日に僕らが自転車に積んで、下へ行って麦と変えてくんははれして、だいたいお金とかえらんと、だいたい物と物で交換して。あまり不自由な時代ですけど、あまり不自由はしませんでした。

島田：むしろ交換ですか？横山の人が仲買か。では横山に米なども来ている。そこで交換できるわけですか。

山本：ぼくらは直接向こうまで行く府中の方まで。

島田：行商みたいな

山本：そうですね。

島田：松尾寺ってありますでしょ。そのあたりでお話し聞いたときに、父鬼の人が奥の方から炭をかついで売りに来たってそういう風に聞きました。

山本：女の人が、さっき柴とかするっていったでしょ。そんなのをリヤカーに積んで下の方へ売りに行くのが女の仕事だったんです。そういう仕事があるんですよ。

島田：柴にしたやつを売りに行く、それが女性の仕事ですか？それは米とかに

山本：そうですね。だいたいその時代はね。それでも、統制時代ですからね。警察の目がえづらにはっていますからね、朝早く出たりして、板で隠したりしてね、帰ってくるんですけど。

島田：統制のころは、そういうのは制限されるんですか？

山本：むちゃくちゃ制限されますよ。夕方来たら見に来ますもん。それからくず炭しか認めてくれませんのや。自分で使わなあきませんので。

島田：そのころ警察ですか？

山本：そうです。

島田：今の駐在さんいはいりますよね。その統制を取り締まるのも駐在さんですか？

山本：駐在です。

島田：だいたいそうすると山本さんにお話しいただいたのは、山本さんが炭をやってらっしゃった戦中から戦後くらいですかね？

山本：そうですね。そのぐらいの時は私が一番話しできるわかってる範囲ということになりますけど、後はもう聞いた話になりますね。

島田：その小学校を卒業されたのはちょうど 1945 年になりますけど

山本：そうですね。

島田：ちょうど 12 歳くらいになりますね。そうしますと 15 年くらいお父さんと。

山本：はい。やりました。

島田：1960 年だから昭和 30 年頃にはやめはったんですか？

山本：そうですね。やっぱり自然的に売れないようになってきたんで、材木屋っていつても上からぴんからきりまでいろいろあってね、杭やっても材木ですしね、大きな柱やっても材木ですし、僕らこの辺におりますからね、材木の細かいところを間引きせなあかんわけです。そんなんを買ってねやったんです。山の仕事を材木業のほうに変えてね。

島田：間引きを買われたんですか？ どういう風に使われるんですか？

山本：それは結局屋根の割木とか、いろいろなんでも使えるんですわ。下の三尺杭ってこのぐらいの杭になるまで、使えるんです。さきっちゃまでみんな売れた。

島田：足場ですね。足場に間引きが使われてたと聞きますね。

山田：そんなんやったんですわ。

島田：ちょっと転業されたんですね。エネルギー革命で？

山本：そうですねん。

島田：だいぶよくいろんなことがわかってきました。

山本：まだほかに、京都方面からの取引があったと言ったでしょ。あれはね、あの当時でもあって、僕らがやりだしてからでも、父鬼の人に茶人がおりましてね、そういうややこしい白い炭のえだになった炭をお茶に使うんだから、作ってほしいと注文うけてね大分やったりしました。

島田：白炭でも、普通の木炭とは違うんですか？

山本：はい。

島田：作り方。

山本：作り方は、自然なもんでねとにかく黒炭っていうのは、密閉して中で空気の流通なくして消して、そして炭さめてから外へ出すんですけどね、白炭の場合は空気にさらして外が白なりますやん。燃えてね、そのまま消しますからね、だから白なりますねん。

島田：そうですか。

山本：そうですわ。

島田：それを白炭にする効果はなんですか？ 見栄えですか？

山本：見栄えもありますし、そうすることによって日持ちがいいというか。

島田：日持ちがよくなる？

山本：究極のときまでね、やりすぎないようにね、燃えてしまわんように。一番究極のところまで閉めていくのが炭焼きの技術でね、そうすることによって一番いいところが残って長持ちするわけで。

島田：焼き切ってしまわないというか、それにあわせて火の加減をしていく。

山本：だから白なるんですよ。

島田：こちらではそういう技術が発達したということですか？

山本：そうですね。

島田：このあたりで知られたというのは。

山本：それはさっきも言われたように、ずっと昔から僕らの知らない昔から、何か知らんけど詩にもありますように誰が発明したんかしらんけど、っていうような詩がありますけどね。そんなんで、これはいろいろ失敗もしながらやったんだと思いますけどね。もう僕らがやるようになってからなにも変わったもの、昔のそのままで伝統を受け継いでやるだけで、今学校でもやっていますけど、それをそのまま教えてるだけで。

島田：どうもありがとうございます。炭焼きをめぐって、だいたい一通りくらい話をさせていただいたと思います。

山本：僕らが和泉市で伝説探検隊と言ってね、市内全体 20 人くらいで各地区からやって、ここはここの伝統の話をしますし、むこうはむこうの話聞いたりしたり、いろいろする会に入っててね、その中で発表したことがあるんでね。それでこの記事にしてあるやつもありますんでね。これをまた、お渡ししますんでまた見てもらって、今言ったことやらもう少し詳しいことも書いてますんで、それでまたわからないことがありましたら、お聞きできたらまたわかる範囲で質問してください。

島田：ありがとうございます。今日のところ私も勉強始めたばかりで、基本的なことをお聞ききました。ありがとうございました。

以上

《資料6》郷土愛醸成（橋本吉兄氏聞き取り記録）

【日時】2014年11月23日（日） 16:50～18:00

【場所】父鬼町内会館（和泉市父鬼町）

【記録作成】藤井亜樹

【作成日時】2014年11月28日（金）

橋本：

この村は歴史的に非常に古い場所なんです。私でわかるだけで8代目なんです。300年前の木を切って製材をしたら、当時300年前に「枝打ち」といって木の枝を掃う作業をしてあったというぐらいですから、かなり古い時代からこの山林という山・木というものに対してここに住む人たちは先ほどの炭焼きと同時に木・林というものに関心を持った生活源であったんであろうということが想像できます。

私ここにおられる大先輩と年代、世代が全然違う。私で戦後生まれです。戦後生まれいうことは1946年。大方もう50歳前後、47、8から50くらいは違うんじゃないかなという風に思います。町会長も同じようなもので2つ3つしか歳変わらんという。だからこういう戦前で生まれた方々の話と戦後の話、第二次世界大戦後ね、ここにまた大きなギャップがあってお話を聞かれる中でひとつ参考にしてもらえることがあるんじゃないかと思います。

それで、先ほど炭焼きの中で雑木を切って炭を焼くという話が出ましたけれども、戦前・戦中にかけて山の木を強制的に政府の指導・指示で伐採をなさいと、今申し上げました当時させられたわけなんですね。伐採をさせられたら戦後10年から12、3年にかけて、今歩いて通って来られたら小学校を通られたと思いますけど、あの小学校でその時代にこの先輩にお聞きになったらわかると思いますけど、トウモロコシを植えたとかサツマイモを植えたとか、学校のグラウンドにそういうものを植えるような時代であったと。ですから、戦後、山の強制伐採をした後の山に植林をするような時代・時期では経済的なそういう状況ではなかったということです。

1946年に生まれた私が1956年から1960年代に入ってきた時代に、その伐採した後ちゅうのは山を放っておいたらそこに必然的に自然に杉や檜は生えてこないけれど雑木は生えてきよるわけなんですね。先ほど言ったようにウバメガシ、それといわゆるカシやらドングリやらコナラやらというのが勝手に山に生えてくる。放つといっても。で、その勝手に生えてきた雑木を先ほど持ってこられた、鋸じゃないんです。あれはもう一昔の時代で我々の時代になったときは普通のどこでも売ってるような鋸です。木を切る用のね。それと鉋、鎌、こういう3つの道具でその雑木を1本1本切って山に倒すと。枝は払って鋸で切ると。切ったら山中雑木だらけになってしまいますね。それをひととこに集めます。ひととこに集めると言っても、山の頂上から山裾までどないして集めるんやということになってきますから、長さにしたら2メートルくらいまでに長さに切って、箇所箇所に集約していくわけですね。箇所箇所に集約をしてその間、箇所から箇所に対して上下にしたら10メートルくらいの島を作っていくわけですね。その島も横つなぎに繋がってしもうとったらいかん。とびとびの島をこうして作っていくかん。なぜなら、その雑木をそのまま置いて

あったら植林してもその雑木が邪魔になるから。新聞紙で火をつけてその束ねた島を一山ずつ全部燃やしていくわけですね。燃やしたら順番に上から火をつけます。間違っても山裾から火つけたら炎っちゅうのは上へあがるから、上の島に火つくまた火つく山燃えてしまんならんことになるから。だから、上の島から適宜燃やして行って、ここが全部燃えきったら次の島も、下の山も、この広い山を順番にこないして燃やして行って山を裸にする。

裸にしたら今度山の頂上にどないして、猿じゃないんやから這うてあがるわけにいかんから、それには全部こうして道をつけてる。こうして山に全部、唐鍬（とうぐわ）によって道をつけてくると。そして、その道がついたら先ほどちょっと出かけたったんですが、だいたい3月から、一番理想なのは3月中。早かったら寒い、遅かったらぬくなくなってくる暖かくなってくるということで、できれば3月中に1人、当時女の人、40代から50代、ちょっとひねたなあいうたら60代も含めて、女の人たちも含めて男の人も含めて天秤棒、長さにしたら1メートル50くらい、太さにしたらちょうど手で握れるくらい、バットの握るところよりも太いくらいの天秤棒に、こっちに150本の苗、ヒノキの苗・スギの苗。それから、男の人でだいたい300本、女の人でだいたい200本。こっちに100本こっちに100本。一束25本束になっとるんです、檜の苗。長さにして尺5寸から200、いうたら60センチ前後の長さの苗をつけて、バランスをとるようにつけて山の頂上まで、いろんな山があるけれども、1時間くらいかかって山の頂上まであがっていく。頂上から順番に横一列に並んで幅1メートルくらいの間隔で1本ずつ植えていく。男の人で上手な人は自分で持って行った300本の苗を1日の仕事として全部完植（かんしょく）していく。女の人が200本植林する。けども女の人でも手が早い人は山の状況によって違う、掘っても掘ってもガラばかりしか出てけえへん、いや畑みたいな土出てくる、いろんな状況によるけども、250本植える人もありゃ230本植える人もあれば、1日としたらそういう作業。それで、自分ら子供の時分中学・高校時代には、女の人が200本持ってあがったけれども250本ほどあとの50本どないすんねんっちゅうことになんねん。その50本、1人50本で10人分やったら500本や。山へ着いたら行って来い言われてまたせっかく1時間上まであがった、やっと上来たと思ったのにまた一番山の裾まで行って、200本なら200本、250本なら250本の苗を担いに行ってきた、1回で行ったかて250本、もう1回降りてきてやっと500本、この苗を担いに行かされて、子どもの時分からね。その植林が終わったら、翌年、せっかく植えてもきっちり植えてくれたら雨やら太陽できっちり育ってくれるんですけども、中には植え方がちょっとまずかったり、まずかったりてどんなまずいんや言うたら、掘っても掘っても土出てけえへんかったら下に石が出てきたと。石ももうちょっと大きいやつが出てきたと。その石の上に苗をちゃんと植えても根張っていかんから枯れよる。それだけやったら良いんですが、兎と野兎というのが山に。兎は今まで雑木山でいろんな食べるものがあったのにズバンと切られたから、裸になったから、食べるもんないから、このせっかく植えた苗を兎が食べよる。ほんなら、下手したらその1段1箇所ズバンと食べられることもあれば、我々にしたら一番難儀な、こっちチョコチョコ食べてこっちチョコチョコ食べる。山の上から下まで。ほんなら、2年目にはもう1回その苗を持ってあがって枯れたやつ全部抜いて、兎が食べたら枯れるんでね。枯れるっていうんやなしに、兎が食べて何食べるんやろう、葉っぱを食べるんやろうと思うけども葉っぱは食べてない。皮と木の間にある汁吸いよるんかね。鎌でスパン、ナイフでスパンと落したような切り口に切れ

る。歯で切りよる。汁吸いよるんやろうね。だからそれを植林する。もう 1 回その次の年越えた、また兎にやられた。もう 1 回「補植」(ほしょく) いうて植えに行く。今度 4 年目、4 年目行きたいけどもう 3 年のサイクルができてきたら片一方がもうこないなっとる。伸びとる。4 年目に植えたらこんな苗やったら負けるから、もう諦める。もうそんな場合は諦める。

それが終わってその植林をすると同時に、2 年目からはだいたい 5 月くらいから 8 月 9 月くらいまで、手に鎌を持って、1 メートル間隔に植えた苗の間の草を手で刈りに行く。今のような時代に草刈り機という便利なものがあるからそれで刈ったら速いやろうということなんやろうけども、草刈り機でみかん山で間違ってみかんの根元をコンッて当たってもチョンと跳ね返ってくるけど、苗っちゅうのは細いから草刈り機で刈ったらせっかく植えた苗をスポンと刈ってしまう。せっかく植えたのに何にもならんからいうことで手の鎌で刈る。これも山に行ってもらう人たち、5 人であったり 10 人であったり横一列にならずずっと上へあがっていく。どんな仕事でもそうでしょうけども、一番端に行く人はこっからまっすぐあがれよと。当然ここまっすぐあがってこっちもまっすぐあがる。ここまっすぐあがっていってもらえへんかったら 5 人や 10 人並んだくらいで広い山全部一気にあがるわけにいかんから今日はここからこんなけあがって明日はここから、明後日は向こうからその次は向こうからって 1 週間くらいの幅であがっていかないかん。こっちにいてる人とこっちにいてる人がきっちりあがってくれへんかったらいがんでいったらやな、次の時行くときこんなんして入っていかなあかん。だから端に行く人は大概しっかりした人が入ってまっすぐあがっていく。この草を刈るのにきれいに上手に刈る、こっちの人も上手に刈る。10 人なら 10 人としましよう。中に手の遅い人もある。こんなもん仕事するんやから上手な人もあれば下手な人もおる。また体の体調の悪い人もおる。いろんな状況。皆 3 メートルの幅であがったらええんやけど 1 人がもう 2 メートルしかようあがらんとなってきたら、こっちの人自分の 3 メートルの持ち 4 メートルあがっていかなあかん。そういうことをしながら、お互いに助け合いながら山をずっとあがっていく。何日もかけて。

この仕事、草を刈るのが 7 年間。平均して。早い年は苗がビュッと伸びてくれたら 5 年で終わる山もある。反対に、地が悪くて何年たっても木が成長しない、ゆっくりしか成長しなかったら 8 年も 9 年も刈らないかんような山もある。そうしてるうちに 7 年 8 年かかっていったらもう約 10 年になってる。10 年くらいになってきたらお互いの木が枝をビュービューとお互いに 1 メートルのそこ、相手の枝の上にまだこないして生えていきよる。こういう風に生えていったらもう苗の勝ちで、草がなんぼ伸びようとしても、もう伸びきれない。ほなもう「下刈り」いうて下の草を刈るという作業はもう必要がなくなる。その作業が必要になったら次何が必要になってくるんかいいうたら、ひょろひょろとした木をいつまでたって置いといてもこの子はここまで一緒に来てくれたけどごめんねいうて「除伐」をしてやる。そしたら横にいて肥えてる木はなお一層どんと肥えていきよる。早く大きく成長させないかん。お互いに養分を取り合いするのに水分を取る強いやつ、ちょっとでも大きかったらもう勝ちで、どんどんどんどん大きくなっていく。

それをして除伐をしてやったら 12、3 年目くらいには、「ひもうち」といって木には枝が足元から、土のどこからこないして枝出とる。その枝を鉋で出てる枝をきれいにストンストンと落していく。その鉋の刃物をひげが剃れるくらい先きれいにしておいて、そして

上からストンと一発でやったらどないしても逆剥けいうて剥いてしまう。だから、下からチョンチョンと上からチョンチョン、ストンと一発で落して 5 円玉みたいな節が残るようにきれいに落としていったら木はきれいに皮を巻いていきよる。それはひもうちいうて自分の背丈まで。

それが、今度もっとそこからまた 5、6 年したら「みつばしご」いうて 3 段のはしごを持って行って木でこしらえて、木を利用して山で木をこしらえて 3 段くらいであがって昇って降りていくと。3 段あがったら今度はまた 2、3 年したら 5 段を作る。それを作ってまた 2、3 年したら今度 7 段を作る。さっきいうたようにチョンチョンと。7 段まではしご打ったら今度はもうそこから上は枝に昇っていかなしやあない。それがだいたい 17、8 年から 20 年くらい。枝に登っていったら 7 段のそこから上枝に登っていったら上から枝落としていく。下から落としていったら猿みたいによじ登っていかな登られへんわな。枝落とされへん。だから出てる枝に登っていったら上から順番に枝を落としていく。で、最後にはしごの上に乗って降りてくる。そこから 25 年くらいしてきたら、枝打ってしまったらもう 4 メートル、6 メートルくらい上になっていきよる。それはどないして今度は登っていくんやと。そういうときは「ぶり」といって、我々の使う白縄の端、8 メートルくらいの白縄の先っぽにちょうど手で握れるくらいの長さ、尺 5 寸これは 45 センチくらいの手で握れるくらいの棒を両サイドにつける。そしてその縄でひっかけて回してきて、ほんで最後はちょっとひっかけて、それに輪っかをこしらえていて輪っかに足をかけて懸垂でグッと登って輪っかに足をかけてこの棒のところに右足は輪っかにかけといて今度左足を棒のところに掛けて、そして今度この輪っかから右足を抜いてこの棒の上にかけて。これ 1 本目の橋の棒ができた。それからまた自分の背丈のところに同じような作業をする。そうして同じようにしてそこに登る。登ったら下のやつが空いてくるわな。ほんならそれは上から取って、シュッとしたら取れるようになる締め方があるから。そいつを手繰り寄せて今自分が上ったとこの上。これを繰り返していったら 5 メートルでも 10 メートルでも 20 メートルでも上まであがっていく。上の枝を掃って降りてくるときはそいつを全部外してあとは木に抱きついてサーッと滑って降りてくるだけや。これが木を育てる作業です。

先ほど先生が仰った用材を作るための。それはどういうことかいうたら、この木に節が出ると。この木を山で伐採して製材所へ枝のついてるとこ製材持っていったら全部節が出てきよる。でも、この時代に枝を掃ってあげたらもう枝ないよ。その時に 4 寸隔、12 センチ隔、あるいは 10 センチ隔の柱を引いたら、もうここには節あったけどここまで成長してきたらこの中には節は何にもない。だからこれを製材にかけてビュービューと引いたかて節なんにもない四方の節のないええ檜が出てきたと。ほんなら 1 本 800 円でしか売れへん木が 1 本 1 万円に化けてきよる。その作業をずっと今日までやってきたというのんが現状です。この除伐・間伐というのんは樹が 80 年なってもやらないかん。だから 30 年目、40 年目、50 年目、60 年目、70 年目でずっと 10 年くらいのサイクルでやるのが山づくりの理想。ええ木ができたなということになるんですが、1 本 3 万円くらいで売れた木が今もう 5、6 千くらいにしか売れへんかな。その 5、6 千の木を出してくるのに経費なんぼかかるんやいうたら 7、8 千かかるわな。採算合わん。悲しいかなこれが現状で、先ほど冒頭で申し上げたように、今、山で生活できないから山は放置されとる。全国の山が放置されとる。先ほど申し上げた戦後 1956 年から 60 年代にかけて植林し

た時分は政府から苗代を半分出してやるさかいどんどん植林しなさいと。今まで政府から強制に伐採をしたからそのお返しとして植林をしなさいといって補助金までついた。1本当時 50 円から 55 円、檜の苗が。それ、今 55 円かけて今日はそうやってきても合わん。だから山もうみんな放置。わかりやすくいうたら、杉も檜も含めます。一緒に生えとったとしましょう。木が 50 年生（せい）の木。それで先ほどいうたように枝がもう 6 メートル完全に掃われてる。その木を積んで切って 4 トントラックで 5 杯か 6 杯くらい運んでいって、切ったら、そういう状態を出していただいて 90 万円くらい。その経費はなんぼかかったんやっていうたら経費は 100 万円かかる。10 万円の赤字。もう山やめとこ、置いとこ、いろいろたらいらんことせえへん。これが今の現実。

だから君らが出世してやね、これからはもっと山を見直していかないかんという風になってくれれば素晴らしいことかなと。政府はこういうこと全然してない。だからこの間目新しいところでは、広島で住宅が全部崩壊したのあったわね。君らが小学生か中学生かの時代に京都でバスの上に水に浸かって屋根に上って助けを求めたっちゅうんは知らんか。これはどういうことかと言ったら、山を放置して私が先ほど申し上げた除伐・間伐いうのをしない、もう枝も生えたままで山に日がもう入らない。だから降った雨が地面でよう吸わんわけやね。みんなそのままザーッと流れてくるわ。コンクリートの上へ流れるように。そういう状況で土石流が起こって、広島で後ろの山林見たら手入れしてない。今から 4、5 年前に和歌山と奈良で木が全部倒れて。いろんなことが奈良であった。これもあの崩壊してんの植林したままで全部除伐・間伐されてない。だからこれからの日本は恐ろしい時代に入ってきた。そういうことが全国各地でああいう状況がこれからドンドン起こります。間違いなく起こります。

（以上）

《資料7》2015年2月4日 市長報告資料（都市ランキング分析）

データからみる和泉市 ～都市ランキング等の分析～

2015年2月4日 和泉市長前報告会
於 和泉市役所
社会学部 小副川、小谷、小森谷、上玉利



報告の目的と構成

◆目的

- データ分析により和泉市の特徴と課題を明らかにする

◆報告の構成

1. 和泉市の将来人口の予測
2. 人気がある街の要件
3. 大阪33市のデータからみる和泉市の特徴

1. 和泉市の将来人口の予測

◆使用するデータ

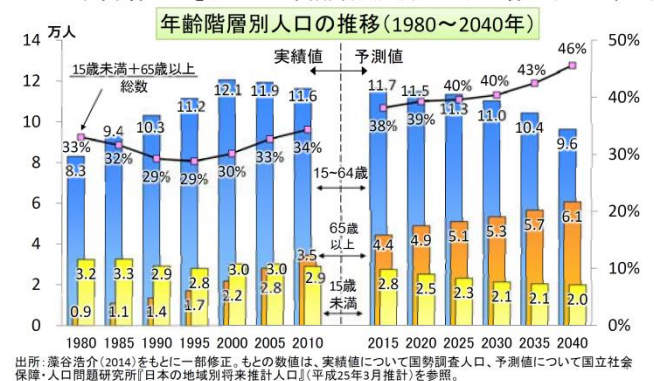
- 1980～2010年の実績値：国勢調査人口
- 2015～2040年の予測値：国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』（平成25年3月推計）



年齢階層別（子ども／現役世代／高齢者）の人口推移を検討し、和泉市の今後の課題を考える

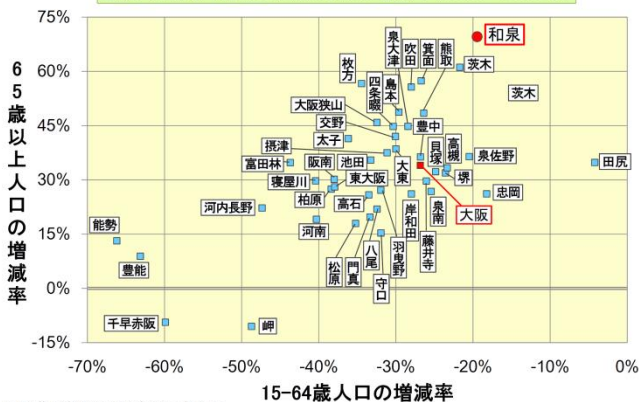
1. 和泉市の将来人口の予測

- 現役および子どもの減少（2000年～）、高齢者の増加
- 「地域密着人口」（子ども＋高齢者）（広井2013）の増加（1995年～）



大阪府内でも和泉市の高齢化は急激

生産年齢人口および高齢人口の増減率（2010～2040年）



1. 和泉市の将来人口の予測

◆今後の課題

- 今後30年における高齢者の増加率（予測）
 - 和泉市は大阪府内で最も高い増加率（69.6%）
 - 高齢人口の急激な増加への対応が課題
- すでに始まっている子どもの減少
 - 子どもが欲しい人が子どもを持てるような（希望する子どもの数と現実の子ども数が一致するような）育児支援が、急激な高齢化抑制の鍵

「地域密着人口」（子ども＋高齢者）が地域で過ごしやすいつ工夫・配慮が必要

2. 人気がある街の要件

KJ法を用いた「住みたい街ランキング」の理由分析

◆方法

□使用するデータ

- 株式会社リクルート住まいカンパニーの「2014年版 みんなが選んだ住みたい街ランキング 関西版—20代~40代編—」をもとに、住みたい理由を分析。

□「住みたい理由」の分析

- 回答者が選んだ街の実態を知っているとは限らない。
- 「住みたい理由」の内容や性別・家族構成(シングル/ファミリー)との関連を検討し、人々が居住地に望む要因を把握する。

「住みたい理由」は大きく5つに分類可能！

- (1)交通・アクセス (2)商業施設
- (3)街のイメージ (4)街並み (5)公的機関

2. 人気がある街の要件

KJ法を用いた「住みたい街ランキング」の理由分析

(1)交通・アクセス

- シングル女性>男性
- シングル女性は利便性を重視し職住近接の傾向があることは若林ほか(2002)でも指摘
- ショッピング等のためのアクセスの良さ

(2)商業施設

- 買い物の利便性→シングル多数
- 男女比は偏っていない
 - 男性:繁華街やモールがある
 - 女性:おしゃれな飲食店や雑貨店、話題のスポット
- 商業施設の充実と各種文化施設の充実が関連付けられる

2. 人気がある街の要件

KJ法を用いた「住みたい街ランキング」の理由分析

(3)街のイメージ

- 「おしゃれな街」というイメージが大体。その他に「歴史がある」「文化的イメージ」「戦前モダニズム」もあがる。
- 男性>女性、「ステータスの高さ」に関しては男性票のみ

➡ **イメージを支える物的基盤:** (4)街並みや(2)商業施設のうちの「文化芸術施設の充実」と、一緒にあげられる傾向

➡ 街の「ステータスの高さ」や「高級感」が「**資産価値**が下がらない」という理由に関連付けられていた

(4)街並み

- 「街並みがきれい」「自然が豊か」「閑静な住宅街」と**具体的**な理由
- 女性票が多く、家族構成に偏りはない
- 男性票はシングルのみ

➡ (3)街並みと(4)街のイメージは相互に関連

2. 人気がある街の要件

KJ法を用いた「住みたい街ランキング」の理由分析

(5)公的機関

- 「子育て、教育環境が良い」こと
 - 男女比は同じで、世帯構成はファミリーのみ
- ➡ **公的機関・医療機関の有無は家族を持つ人が重要視**

2. 人気がある街の要件

◆まとめ

- 交通や買い物の利便性の次に、街のイメージをあげる者が多く、公的・医療機関をあげる者はない
 - 実際に住む街を選ぶときとは基準が異なる
- アクセスの良さや商業施設を充実を求めるシングル層(特にシングル女性は都心重視)に比べ、相対的にファミリー層は公的・医療機関の充実と街のイメージを重視する傾向。
 - 和泉中部地域では「商業施設の充実」をアピール可能。医療機関については救急医療体制に難あり。

3. 大阪33市のデータからみる和泉市の特徴

◆方法

□使用するデータ

- 東洋経済の『都市データパック2014』の自治体データをもとに、人口の再生産、住宅、経済力、医療・福祉、安全の5項目、20変数を分析。

□「大阪33市の中央値」との比較

- 上記データは各市の比率のみが記載されている項目がほとんどであり、正確な平均値が計算できないため。
- 中央値=データを大きさの順に並べたときに真ん中に来る値(今回の場合、33市中で17位となる市の値)。

3. 大阪33市のデータからみる

和泉市の特徴

(1)手ごろな住宅が促す若年夫婦の集住

- 若年層(25～39歳)の有配偶率が高い
- 男女ともに大阪33市内で2位(男性53.9%、女性61.0%)。

◆要因

- ① 広くて手ごろな住宅の入手しやすさ
- ② 若年層の地元定着、結婚を促すような地元文化の存在？

➡「地元つながり文化」(新谷 2007)、「ほどほどに楽しい地方都市」(阿部 2013)

(2)郊外のベッドタウン:経済力は中程度、働きたい女性にとっては育児支援が不足

- 昼夜間人口比率、自市内従業割合は大阪33市の中央値より低い

➡和泉市が郊外のベッドタウンとして機能

- 30～40代女性の労働力率の低さ＝専業主婦の多さ

- 背景:保育所整備率(35.9%、21位)、待機児童比率(1.5%、24位)はいずれも大阪33市の中央値を下回る。

➡保育所の整備をふくめ育児支援の充実が必要！

(3)安全を支える仕組みの必要:病院の偏在、車社会、治安の問題

◆病院

- 人口当たりの病院・診療所数の少なさ(29位)
- 人口当たりの医師数は多い(6位) ➡ 和泉市立病院や咲花病院のような大きな総合病院の影響

➡大病院から離れた地域において医療サービスの不足が懸念される

◆治安

- 世帯当たり建物火災出火件数(24位)、人口当たり刑法犯認知件数(19位)は改善が必要。
- 和泉市における世帯当たり乗用車保有台数の多さを考えると、事故が起きにくい車道・歩道の整備が求められる

➡医療と治安の問題は子ども、高齢者どちらにとってもマイナス要因、早めの改善を!!!

参考文献

阿部真大, 2013,『地方にこもる若者たち——都市と田舎の間に出現した新しい社会』朝日新書.

新谷周平, 2007,「ストリートダンスと地元つながり——若者はなぜストリートにいるのか」本田由紀編『若者の労働と生活世界——彼らはどんな現実を生きているか』大月書店.

広井良典, 2013,『人口減少社会という希望——コミュニティ経済の生成と地球倫理』朝日新聞出版.

藻谷浩介, 2014,「これからの泉大津を創る新総合計画シンポジウム」基調講演(2014年10月26日)の配布資料.

若林芳樹・神谷浩夫・木下禮子・由井義通・矢野桂司編著, 2002,『シングル女性の都市空間』大明堂.

《資料 8》2015 年 2 月 4 日 市長報告資料（まち比較アンケート）

まち比較アンケート調査

本学一人暮らし学生を対象とした
和泉市の評価と居留意志

西田希帆・八嶋祐樹・中井保広

調査概要

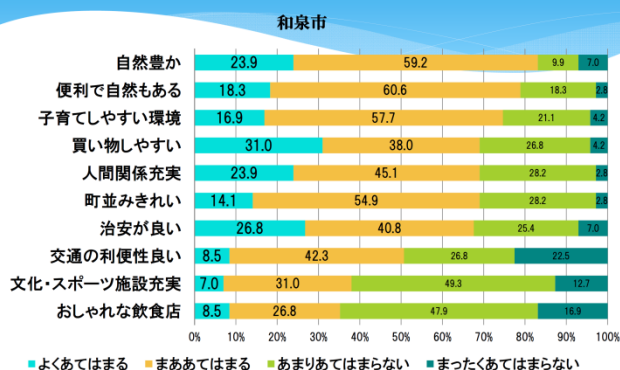
- * 本学に通い、和泉市で一人暮らしをしている学生を対象に「まち比較アンケート調査」を実施。
- * 地元と比較しながら、和泉市の長所・短所、将来の居留意志などに回答してもらった。
- * 調査結果より若者がとらえた和泉市の魅力・課題を探る。

調査方法

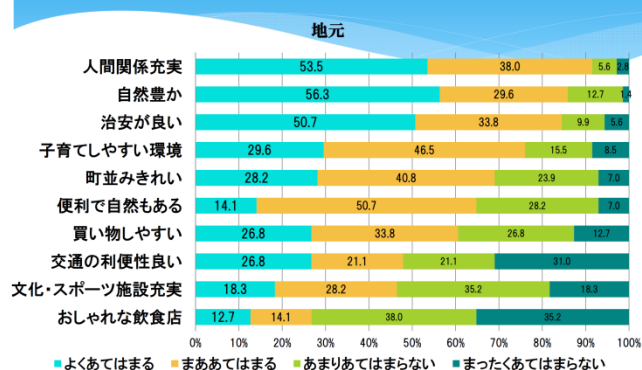
- * 調査期間 2014年12月23日～2015年1月20日
- * 本調査に参加した学生メンバーおよびデータ解析実習の受講者の協力のもと、計72票の回答を得た。
- * 性別 男性43(59.7%) 女性29(40.3%)
- * 学年 1回生23(31.9%) 2回生33(45.8%)
3回生12(16.7%) 4回生4(5.6%)
- * 学部 社会学部28(38.9%) 経済学部13(18.1%)
経営学部8(11.1%)、法学部10(13.9%)
国際教養学部13(18.1%)

調査結果

<和泉市の項目別評価>



<地元の項目別評価>



＜和泉市と地元の評価の比較＞



※よくあてはまる4点、まああてはまる3点、あまりあてはまらない2点、まったくあてはまらない1点として各項目で表示。

＜和泉市にあってよかったもの＞

- * ららぽーと和泉(ららぽーと和泉をありがとう)
- * エコール和泉(ニトリ、イズミヤ、ヤマダ電機、病院など)
- * 和泉中央公園(公園が多い)
- * 業務スーパー、コストコ、SEIYU
- * 空気、星がキレイ!!!

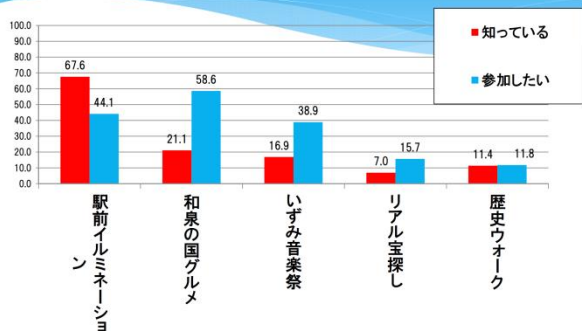
＜地元にあるよかったもの・和泉市にあるほしいもの＞

- | | |
|--|--|
| 地元にあるよかったもの <ul style="list-style-type: none"> * 海 * 温泉 * みかん畑 * 地域の人のかさ(誰とでも挨拶ができた) * 大きな祭り(屋台が出るような) | 和泉市にあるほしいもの <ul style="list-style-type: none"> * 映画館 * カラオケ * TSUTAYAなどのレンタル店 * 24時間営業のファミレス * 学生が食事しやすい飲食店 * 有名な食べ物(特産品) |
|--|--|

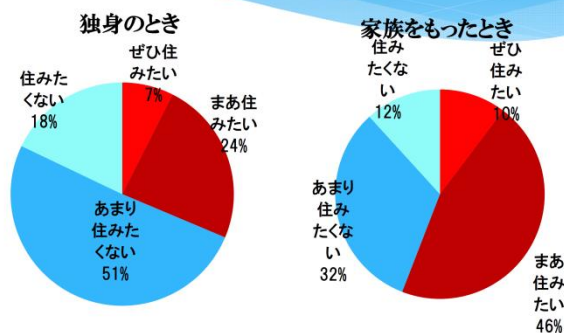
＜和泉市にあってほしいもの、充実させてほしいもの＞



＜和泉市のイベントの認知度と参加意欲＞



＜将来の居住意志＞



＜住みたい理由・住みたくない理由 (独身)＞

住みたい理由

- * のどか、のんびりでさう。
- * 治安が良い。落ち着いている。
- * 身の回りの物を揃えやすく、街並みがきれい。
- * 自然があって、生活に困らない環境だから。
- * 程よく便利な環境。

住みたくない理由

- * 交通の便が良くない。
- * 飲み屋・遊ぶ所・夜遅くまで開いている店が少ない。
- * もう少し都心部に住みたい。

＜これがあったら住みたい(独身)＞

- 一人でも楽しめるもの、足を運べるものを充実させて欲しい。
- 交通を便利にして欲しい。
- 利便性の向上・商業施設の充実(特にカフェと居酒屋!!!)

＜住みたい理由・住みたくない理由 (家族)＞

住みたい理由

- * 静かで住みやすいと思う。
- * 治安が良く、日用品を揃えるのに困らない。
- * 住宅街が多い→安全、安心、子育ての環境が整っている。(公園など)
- * 程よい都会で住みやすそう。

住みたくない理由

- * 家族で行ける施設が少ない。
- * 子どもが楽しめそうな場所がすくなそう。
- * 交通があまり良くない。

＜これがあったら住みたい(家族)＞

- 子どもと一緒に遊べる施設・公園が欲しい。
- 家族単位で参加できるイベントが欲しい。
- より良い交通機関

調査結果から見える和泉市の 魅力と不足点、提案

- * 都会の魅力(便利さ、街並み)と田舎の魅力(澄んだ空気、キレイな星空)を兼ね備えている。
→自然をアピールした広報、イチゴ狩り・星空ツアーの開催
- * 家族を持ったときは魅力、若いときはやや不人気
→娯楽施設(カラオケ・映画館)、スポーツ施設の設置
- * 交通機関への不満(電車の本数・値段・バス)
→若者が乗りたくなるバスを企画
- * 音楽祭やグルメイベント高い参加意欲・低い認知度
→Twitterの口コミを利用した広報

《資料9》2015年2月4日 市長報告資料（理想都市像）

報告の目的と構成

◆目的

- 都市ランキング等のデータ分析およびインタビュー調査をふまえ、「理想の都市」の条件を考える。
 - 新奇性が失われた数年後に「どこにでもある（寂れた）郊外」とならないために、何が必要か、何ができるか。
 - 和泉市に足りないものを新しくつくるのではなく、**潜在的な資源を発掘・生かす**仕組みを考えたい。

◆報告の構成

1. インタビュー概要
2. インタビューから言えること
3. 和泉市への提言

和泉市の個性を生かした 「理想都市」づくり ～新たな地域価値の発掘をめざして～

2015年2月4日 和泉市長前報告会
於 和泉市役所
桃山学院大学社会学部
小谷、小副川、上玉利、酒井、溝渕、小森谷



1. インタビュー概要 ～和泉市周辺の活動団体、組織～

◆データの収集方法と対象

- 和泉市周辺で地域に関わる活動を行っている団体、組織に対してインタビュー調査を実施。
 - ① 有限会社コミュニティ(2014年7月31日実施)
 - ② 石尾山弘法寺(2014年12月1日実施)
 - ③ 「いずみの国のいつくしみ市」実行スタッフ(2014年12月1日および12月12日実施)

2. インタビューから言えること (1)有限会社コミュニティ

◆企業概要

- 1971年創業。
- 泉北ニュータウン周辺を対象として地域紙「泉北コミュニティ」を発行・配布。



地域の現状や開発の動向、行政等の情報を掲載

2. インタビューから言えること (1)有限会社コミュニティ

- 地域に密着した**情報提供**を行うと同時に、**住民同士の相互交流の場**となることを目指している



地域情報がなければ地域への関心が生まれない

コミュニケーション、情報共有の場が必要
(メディア空間／現実の空間かは問わない。)



HPでは「サークル・団体情報」や不用品交換(「譲ります」等)の情報掲載

2. インタビューから言えること (2)石尾山弘法寺

◆概要

- 和泉中央駅から徒歩10分にある、高野山真言宗の寺。「石尾のお大師さん」と親しまれている。
- 活動:「地域社会を豊かにするお寺活動」を目指し、「お寺」という空間を使って地域に開いた様々な活動を実施。
 - 本堂開放
 - 「お寺かふえ」
 - 「お寺で浴衣で夏祭り」
 - 「いずみの国のいつくしみ市」
 - 「和泉の国ジャズストリート」の会場提供など



2. インタビューから言えること (2) 石尾山弘法寺

- ◆ 良い点①地域の人、世代を超えたつながり
地域コミュニティの人々が生き生きしている！
➡ **人々が集まることのできる憩いの場の存在**（弘法寺）
 - ⊗ 課題
➢ コミュニティの偏り、活動が知られていない ➡ 新しく移り住んだ人（特に若い世代）が輪のなかに入りにくい
 - ◆ 良い点②自然の豊かさ
自然が残っているからこそ **昔からあるものの良さ**に気づく。
- ↓
- 今あるものを用いて、その良さをいかにして“気づいてもらうか” ➡ 和泉市独自の魅力の活用**

2. インタビューから言えること (3) 「いずみの国のいつしくみ市」実行スタッフ

- ◆ 概要
 - 活動：石尾山弘法寺において「いずみの国のいつしくみ市」を開催。
 - 「いのちをいつくしみ、かけがえのない豊かな自然を未来の子供たちに」というテーマのもと開催し、2014年11月で2回目。
 - **地元の有機野菜やオーガニックフード、ナチュラルなお菓子、手作り雑貨が並ぶナチュラルマーケットと自然との共生を考える企画**が実施され、子連れの若い母親が多く来場した。



第1回目（2013年12月8日）の様子。（石尾山弘法寺のHPより）

2. インタビューから言えること (3) 「いずみの国のいつしくみ市」実行スタッフ

- ◆ 概要
 - 活動のきっかけと今後：谷山池の保存を求める会の活動をきっかけに中心メンバーが集まる。現在、谷山池に親しみ、その美しさに触れる機会を増やすため、「谷山池ガーデン」（市民農園）をつくる計画が進行中。



2. インタビューから言えること (3) 「いずみの国のいつしくみ市」実行スタッフ

- ◆ 和泉市の良い点
 - 豊かな自然と都会の便利さを兼備
 - 「子ども達が自然と触れ合うには最高の場所」：近畿圏内で絶滅危惧種がいる場所ベスト3。オオタカやコウノトリが飛来するほど自然に恵まれ、地元産の野菜・果物が豊富。
 - 商業施設がそろい、難波や梅田にも比較的近い。
 - 熱い市民
 - 未来志向で“街をもっと魅力的に”という熱い思いを持った市民や市民団体が存在。
 - 彼らが地域貢献の思いをもって楽しい場を作ること、人が集まり仲間がふえる！
- ◆ 課題
 - 和泉市に対するネガティブなイメージ：「田舎」「恥ずかしい」...
 - 市民の無関心、二極化
 - 多くの市民は豊かな自然に気づいていない。また、自然より利益優先の風潮。
 - 市民の中で関心層と無関心層の二極化
 - 楽しい場を作り、人を集めるような行政側の働きかけも必要
例）堺市・泉北ニュータウンのまちづくり：コミュニティ・デザイナーの山崎亮氏やgraf代表服部滋樹氏を招き、若い人を巻き込む楽しそうな仕組みづくりを試みている。

3. 和泉市への提言

(1) 和泉市の強みと弱み

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・ 若年層（25～39歳）の有配偶率が高い 男性：和泉市53.9%、大阪中央値48.4% 女性：和泉市61.0%、大阪中央値55.9% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 育児支援の充実が必要 保育所整備率： 和泉市35.9% 大阪中央値36.9%
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に対する積極的な姿勢を持つ市民の存在 	<ul style="list-style-type: none"> ・ （地域や環境に対する）関心層と無関心層との二極化 ・ 高齢化と高齢者の孤立化 ・ 関係づくり等のソフトな支援不足
<ul style="list-style-type: none"> ・ ニュータウンと自然の共存 ・ 土地が安く、手ごろな住宅を入手しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ “田舎っぽい” “未開発”等の否定的なイメージ

(2) 和泉市のこれから

更なる利便性の追求

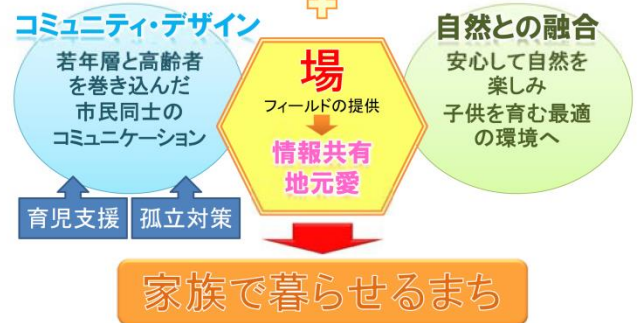


(2) 和泉市のこれから

育児施設・支援の充実化etc.

更なる利便性の追求

都市部とのアクセス強化etc. 道路の舗装整備etc.



《資料 10》2015 年 2 月 4 日 市長報告資料（観光未来像）

和泉市の「観光未来像」



桃山学院大学経済学部2回生

石田勇樹、石橋朋美、上野彩絵、上原大輝、
大石人生、岡田直城、垣本悠輔、加藤葉太、
金正慎也、熊谷翼、河本晋、小林克季、
水流健汰、中村拓也、橋本祥吾、平松瞬、
福井直樹、本田岳、前屋直志、松下奈津

地域ブランド調査の結果

- ・ 地域ブランド調査の概要
- ・ 和泉市の経年変化
- ・ 市の「魅力」と「観光」との関係性

※調査内容の詳細は報告書に記載

- ・ 有効回答(総数): 31,433
- ・ 評価方法: 5段階評価(0-100点)の加重平均
- ・ 対象: 20-60代消費者(年代毎に同数)
- ・ 市区町村毎の回答者数: 472-655

魅力度との積相関

「魅力」ある市は、「観光」したくなる市でもある。魅力度が高ければ、認知度、情報接触、居住も高くなるのではないか！？

	pearson
	0.796
	0.824
	0.825
観光意欲度	0.941
産品購入意欲(食品)	0.638
産品購入意欲(食品以外)	0.456

※0.7以上だと正の相関関係

主要項目経年変化(スコア)

調査年	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
認知度	24.6	28.7	29.8	31.0	29.2	29.0	30.7	28.0	28.4
情報接触度	11.6	14.0	14.9	15.7	13.7	15.9	15.7	16.4	13.7
魅力度	3.3	3.5	3.1	4.5	3.1	3.9	3.6	3.3	3.8
観光意欲度	7.0	9.3	10.3	11.7	11.5	11.8	11.1	11.4	13.0
居留意欲度	-	2.7	2.4	3.6	1.9	2.6	2.3	2.7	1.8
産品購入意欲(食品)	-	0.7	2.3	3.4	1.5	1.9	0.2	1.0	0.7
産品購入意欲(食品以外)	-	0.4	1.1	0.4	1.2	0.2	0.1	0.2	0.8

※赤字は最も点数が高かった年

主要項目経年変化(順位)

調査年	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
認知度	297	261	274	246	259	283	248	276	252
情報接触度	330	334	362	314	347	356	339	308	356
魅力度	415	478	548	447	539	518	536	556	475
観光意欲度	382	525	654	594	594	643	719	719	566
居留意欲度	-	-	-	-	-	-	-	463	690
産品購入意欲(食品)	-	-	-	-	-	-	-	755	777
産品購入意欲(食品以外)	-	-	-	-	-	-	-	666	267

和泉市の魅力を高めるには、
観光を磨くべき！
和泉市の観光資源（商業含む）を探っていく。

※1,000市区町村における項目別の順位

今回、トリヴェール和泉を対象にしました。

概要

1992年に街開き

1995年に泉北高速鉄道と泉中央駅が開業

・いぶき野: 商業施設と集合住宅

・まなび野、はつが野: 大学と閑静な住宅地

・あゆみ野: 企業や研究所が立地する産業地区



その中でも・・・、
ショッピングセンターを調べました。

- ・ エコールいずみ
- ・ 三井ショッピングパーク ららぽーと和泉
- ・ コストコ 和泉倉庫店
- ・ COMBOX 光明池(その他地域)
- ・ ピボ和泉中央(その他地域) など…



エコール・いずみについて



エコール・いずみ

イズミヤと専門店からなるショッピングセンター

専門店

Fashion :12店(婦人服、レディースファッションが多め)
Fashion Goods :11店(眼鏡、靴、鞆 etc.)
Living & Hobby :6店(本、家具 etc.)
Restaurant & café :12店
Foods :10店
Service :43店(クリニック、学習塾、銀行 etc.)

アムゼフェスティバル

エコール・いずみ内アムゼ広場では、年中を通じて多様なイベントが開催されている。

アムゼフェスティバルは「楽しみの場所」の創出と地域活性を目的としている。例えば、アイドルの卵などの演出者に発表の場と、発掘のチャンスを提供している点にある。



他に、どんなイベントがあるか？

- 「ふるまいおもち入り豚汁&朝市」
各回先着150名様にプレゼントおよび朝市を開催。
- 3人組の音楽ユニットの「ケラケラ」のライブ



エコールいずみの Q&A

- ◆雇用人数は？
⇒全員で1,300人程度(本館800人、東館150人)。
- ◆今までのお店の入れ替わりは？
⇒テナントの入れ替わりが激しい。入れ替わり際には出て行ってもらふ店の責任者ともめることが多々ある。
- ◆アムゼモールの今後のイベントの予定は？
⇒ヒーローショーをする予定。
- ◆一番売り上げが良い店は？
⇒八百屋。月間4,000万円の売り上げ！
- ◆エコールVSららぽーとならないのか？
⇒ならない。そもそも目的や視点が違うからだ！

ららぽーと和泉について



●13

ららぽーと和泉

- 大阪府内初出店、10月30日にグランドオープン
- 構造規模：鉄骨造5階建
(1階、5階、屋上に駐車場、2～4階が店舗)
- 敷地面積：約114,000㎡
(コストコと合わせると、甲子園が4つつ)
- 店舗数：店舗数：218店舗
- 駐車台数：約3,400台
- 交通：阪神自動車道「岸和田和泉IC」約300m、泉北
高速鉄道「和泉中央駅」約3km



●14

ららぽーと和泉の3つの特徴

“エリアオアシス”をコンセプト！

◆ママwithららぽーと

子育て中のママたちの意見を取り入れ、子育てファミリーに優しいショッピングセンター。

◆ワンストップ・ショッピング

「ZARA」や「H&M」など、好感度な人気ブランドが勢揃い。また、「アーバンリサーチドアーズ」などの国内人気セレクトショップから「ロフト」や「無印良品」まで、あらゆる商品が揃う。

◆防災対策・環境対応

警察官立寄所を設置し、地域と共存する安心・安全な施設。また、地下水、かまどベンチ、非常用発電施設などの防災策を設置。

●15

位置を把握するための工夫

◆床の素材を変える

2階：タイル 3階：カーペット 4階：シート

◆サイン(ロゴ)のデザインを変える

2階：幹 3階：枝 4階：葉

◆通路をあえて片側はまっすぐ、もう片側はカーブにしている。



●16

ららぽーと和泉ナンバー調査

目的

- ・自動車による来客者の出発地を調査するため

日時

- ・12月3日(水)、7日(日)12時～13時

方法

- ・ららぽーと和泉の立体駐車場(1F・5F・RF)で、自動車のナンバープレートを目視して出発地を分類した結果である(最大で計2,800台)。

●17

ららぽーと和泉ナンバー調査

	12月3日(水)	12月7日(日)	2日合計	
和泉ナンバー以外	44%	51.5%	2,115	55.5%
府県(20%)からも来客が多い！	12.8%	12.8%	505	13.2%
⇒観光集客的な機能	5.4%	5.4%	180	4.7%
大阪府内	9.8%	9.8%	229	6.0%
和歌山	141	330	471	12.3%
その他	98	206	304	7.9%
合計	1,438	2,366	3,804	

※12時～13時に立体駐車場(1F・5F・RF、計2,800台)を調査した結果である。

●18

Q&A



◆ コストコの影響は？

⇒コストコは商圏が広いので、遠くからコストコに来た人がららぽーとにも来てくれる。

◆ なぜあの場所に建てたのか？

⇒周りに人口が何人住んでいるかを重視。和泉市、岸和田市、堺市を合わせると100万人の商圏がある。

⇒数ある規制の中でショッピングモールを建てれる場所があそこだけだったため。

⇒インターが近いので県外からも来やすい。

◆ ラウンド1を入れた狙いは？

⇒より長く時間を消費してもらえ、滞在型のテナントを入れたかった。



● 19

Q&A



◆ 想定外なことは？

⇒月曜日のお客さんが多いこと。

⇒ピークが昼、夕方の2度(11時台、18時台)。

◆ くるなぜ映画館をいれなかったのか？

⇒まわりに映画館が多いことなど、映画会社とのタイミングが合わなかったため。

◆ 目標にしていた来客数は達成できたか？

⇒達成できた。来客数は、車の台数で数えている。



● 20

聞き取り調査

- 高間正浩(㈱関西都市居住サービス)

場所:エコール・いずみ 2014年10月22日

- 松本和之(三井不動産㈱)

- 北健二郎(三井不動産商業マネジメント㈱)

場所:ららぽーと和泉 2014年12月3日

- 井阪浩明(日本人造真珠硝子細貨工業組合)

場所:Rihanna(リアーナ) 2014年12月24日

● 21



その他のフィールドワーク

● 23

弥生文化博物館 体験学習メニュー



- ◆ 土笛(オープン粘土) ¥300

- ◆ プレスレッド ¥100

- ◆ コースター ¥200

- ◆ まがたま (小)¥300 (大)400

- ◆ 土器づくり 100g ¥100

【1つ300g~, 作品は後日渡し】

- ◆ 土笛(陶芸用粘土) ¥300

【作品は後日渡し】

- ◆ ガラス玉 ¥500

【中学生以上、指定日のみ】

予約不要
所要時間 約1時間

予約必要
所要時間 約1~2時間

● 24

地元で大人気！！ パン工房 フルニエ

- ・所在地 〒594-1105
- ・大阪府和泉市のぞみ野3丁目799-43
- ・TEL 0725-55-2220
- ・営業時間 AM6:00～売り切れまで
- ・定休日 日曜、木曜



● 25

その他の訪問先

博物館・美術館

- ・池上・曾根遺跡
- ・久保惣記念美術館

飲食店

- ・ダンニャワード
- ・ポアールテラス
- ・T-YOKOGAWA
- ・I:ZCOFFEE



● 26

学生から見た和泉市の「強み」と「弱み」

強み： 大学、商業施設、まちの美観

弱み： **遊ぶ場所(遊戯施設)**

強みであり、弱みでもある： 生活の利便性

弱みであるが、強みもある： **交通、観光**

※ワークショップ②の結果を掲載、詳細は報告書に記載

● 27

学生からの提案

和泉市における観光＆商業施設の実情を踏まえ、若年層を惹きつけるためには、どのような工夫、施設が必要か？

● 28

学生からの提案

金正慎也

- ・心斎橋のように**ファッション**の多い商店街のような施設を作り、**月1くらいでセール**をする。

垣本悠輔

- ・アミューズメント施設が比較的少ないので、**大規模アミューズメント施設**を設置する。
- ・(和泉中央周辺で)**バル街**のようなイベントを実施する。

● 29

学生からの提案

上野彩絵

- ・私は、和泉市の観光に若者を惹きつけるには、もっと**PR**を行うべきだと思います。私も今回この講義で調べてみて和泉市にいろいろな観光地があることに気づきました。つまり、若者には知られていない観光地がまだあります。そこをどうやって有名にしていけるかは、**イベント**でPRをさかんに行うべきだと思います。また、ららぽーとのように**ママをターゲット**として売り出していく商業施設のように、**親子で遊べる様に工夫**していくべきです。

● 30

学生からの提案

本田 岳

- 今回、ららぽーと和泉にラウンドワンができましたが、若者を集めるにはユニバーサル・スタジオ・ジャパンといった**日本全体に宣伝できるもの**が必要だと思います。
- ららぽーと和泉は和泉市の代表的なものになっていますが、ファミリー向けなので、有名ブランドや**幅広い年齢層が遊べる場所**が必要だと思います。

● 31

学生からの提案

大石 人生

- 和泉市自体が広範囲過ぎて若者を惹きつける施設が点々としています。そのため、私達大学生にとっては行こうにも行けないのが現状です。そこで**バスの本数**を増やし、**無料送迎バス**の手配などをすれば利用者も増えると思います。また個人的には**桃大付近**には遊ぶ施設があまりにも少なすぎるので**若者が集まる施設**を作るのがいいと思います。

● 32

学生からの提案

中村 拓也

- 和泉市がどの部分を**一番アピール**しているのか明確ではないと思う。和泉市に観光・旅行に行きたいと思えるほどアピールできていないので興味を持ってもらえないのだと思う。もしかしたら和泉市としてはアピールしているのかもしれないが、自分たちには全然情報が入ってこない。改善方法としては和泉市の一つの特徴である**町がきれいで治安のいい環境**を生かして、20代で新居を建てるような人をターゲットに**インターネット**等を通じてアピールすれば、若い人をどんどん町に入れていけると思います。

● 33

小林 克季

- 若年層の興味を惹くためには、「手軽さ」が重要！
例えば、スマートフォン、ジャンクフード店、遊戯施設などの**「手軽さ」、「気軽さ」**があれば、若年層の興味は自然と集まり、和泉市に立ち寄る人も増える！
「ららぽーと」を除き、他の地域へ遊びに行く。「ららぽーと」も交通手段が少ない。市内で「気軽に」時間を過ごせるのは飲食店しかない。それらも観光としては意味がない。
- 伝統に工夫を・・・**和泉市といえば〇〇！！**
和泉市にはガラス細工や人工真珠、みかんや綿・合成繊維などあるが、個人で体感するには手間がかかる。そのためか、「和泉市といえば」と言われるモノの知名度が低い。まずはその中の**一つをピックアップ**、アピールをして知ってもらい、「手軽に」体験・参加できる状況を作ることが必要！

● 34

学生からの提案

水流 健汰

- **バリアフリー**を進め、ベビーカーを引く若い夫婦層に優しい街になり、これら層の来街を促進することが出来、訪れる人を増やす。
- ボールプールやわいわい広場、児童向け図書館を設置する。**親子での遊び**を通じたふれあいや**子育て支援**をターゲットとした機能を促進し、訪れる人を増やす。
- 商店街の空き店舗数を改善する。店舗の経営の安定のために家賃援助などをする。通行量が増え、魅力が向上し、観光客が増える。

● 35

学生からの提案

松下 奈津

- ららぽーと和泉ができて、ラウンドワンなど遊べるところが増えたが、ショッピング中心なので、もう少し遊ぶ施設を増やす。例えば、和泉市にはない、**映画館**など。
- フィールドワークで調べたように、美味しいお店がたくさんあるので、それを**もっと宣伝**する。
- 若年層向けの有名な観光名所がないので、他県・他市から若年層の旅行客をターゲットにし、**キャンプ場のような宿泊施設**をつくる。

● 36

学生からの提案

岡田直城

- コストコやららぽーとができて、若年層向けのアパレル店やラウンドワン、飲食店など、若者が集まっています。しかし、大学に公共交通機関で通学している学生にとっては厳しい立地だと思います。**大学生を対象**とするなら、**駅の近く**に商業施設を建てるべきです。また、映画館がありません。映画館は若者にとってかなり嬉しいので、多くの若者が集まると思います。エコーいずみやアムゼモールにもっとアパレル店を充実させるべきだと思います。まとめると、駅から近いかつ大学から近い範囲にアパレル店や映画館などの施設が必要です。この結果、和泉市に若年層が集まり、より経済が発展すると思います。

● 37

学生からの提案

河本晋

- シニアデーのような**若者デー**を月に一回つくったり、ラウンドワンなど娯楽施設を増やす。

橋本祥吾

- 若者に**人気のアーティスト、タレント**を呼び込み、イベントを行う。1日ではすべての店舗を見て回ることができないくらいの多くのファッションブランド店を展開する。若者が遊ぶことに時間を忘れて、終電を逃した時のために、**安価で寝泊まり**ができるネットカフェやカラオケボックスなどを設置する。24時間営業で、客と店員しかり、客と客の間に仕切りがあるサービス店舗の拡大や、居酒屋や飲食店の大量展開などが必要だと思います。

● 38

学生からの提案

石橋朋美

- **PR活動**をもっとすべきだと思う。「ららぽーと」のコンセプトや設計、「コストコ」の品揃えなど。他県からも買いに来るパン屋さんの「フルニエ」や「T-YOKOGWA」、「I-ZCOFFEE」などカフェもたくさんあり、若い女性や主婦がカフェ巡りするのにいい。
- 和泉市は若年層を惹きつける魅力を十分に持っている。このような魅力を**広告やメディア**でPRし、多くの人に知ってもらい、それに見合った住宅・施設を建てれば、新婚さんや小さい子供がいるファミリー層が移住してくれると思う。

● 39

ご清聴ありがとうございました。

● 40

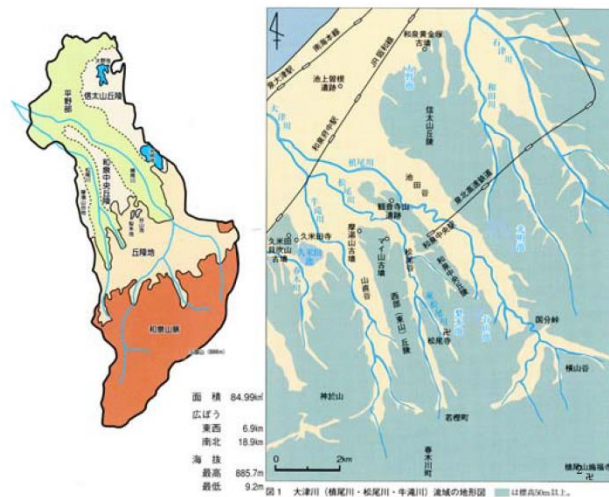
《資料 1 1》2015 年 2 月 4 日 市長報告資料（郷土愛醸成）

次期和泉市総合計画に向けた報告会

歴史的な成り立ちをふまえた横山・南横山地域の姿



2015年2月4日 桃山学院大学経済学部
石田、平松、藤井、山口



北野政吉氏の聞き取り調査（側川）



3

山本博和氏、橋本吉兄氏の聞き取り調査（父鬼）



4

和泉市市史編纂室での資料調査



5

炭焼き労働（『岩波写真文庫 山村の生活』より）



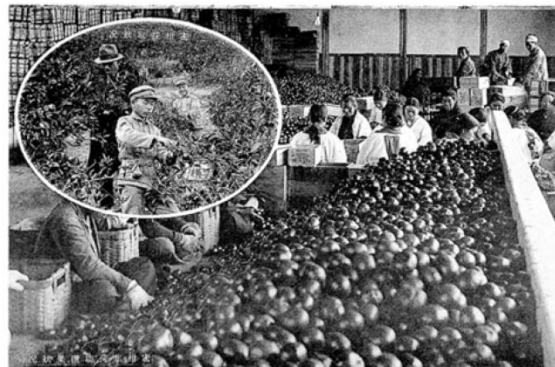
6

現在の炭焼き(南横山小学校での炭焼き体験の様子)



7

蜜柑出荷場の風景(昭和初期)



8

敗戦後の大阪ミナミの風景



9

2013年11月、槇尾川上流域にて



おおさか材認定事業者登録証(北野氏)



11

和泉市若年世代定住条件等に関する
意識調査・分析および提言

報告書

平成 27 年 4 月

発行 桃山学院大学

住所 和泉市まなび野 1－1

執筆者

上野 淳子 社会学部准教授

（民間都市ランキング等の分析、「理想都市像」の提案）

阪口 祐介 社会学部准教授

（「まち」比較アンケートの分析）

角谷 嘉則 経済学部准教授

（「観光未来像」の提案）

島田 克彦 経済学部准教授

（「郷土愛醸成」に向けた提案）